

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

13

14

15

B

17

18

19



旅行用心集

全

183 ^特
2485

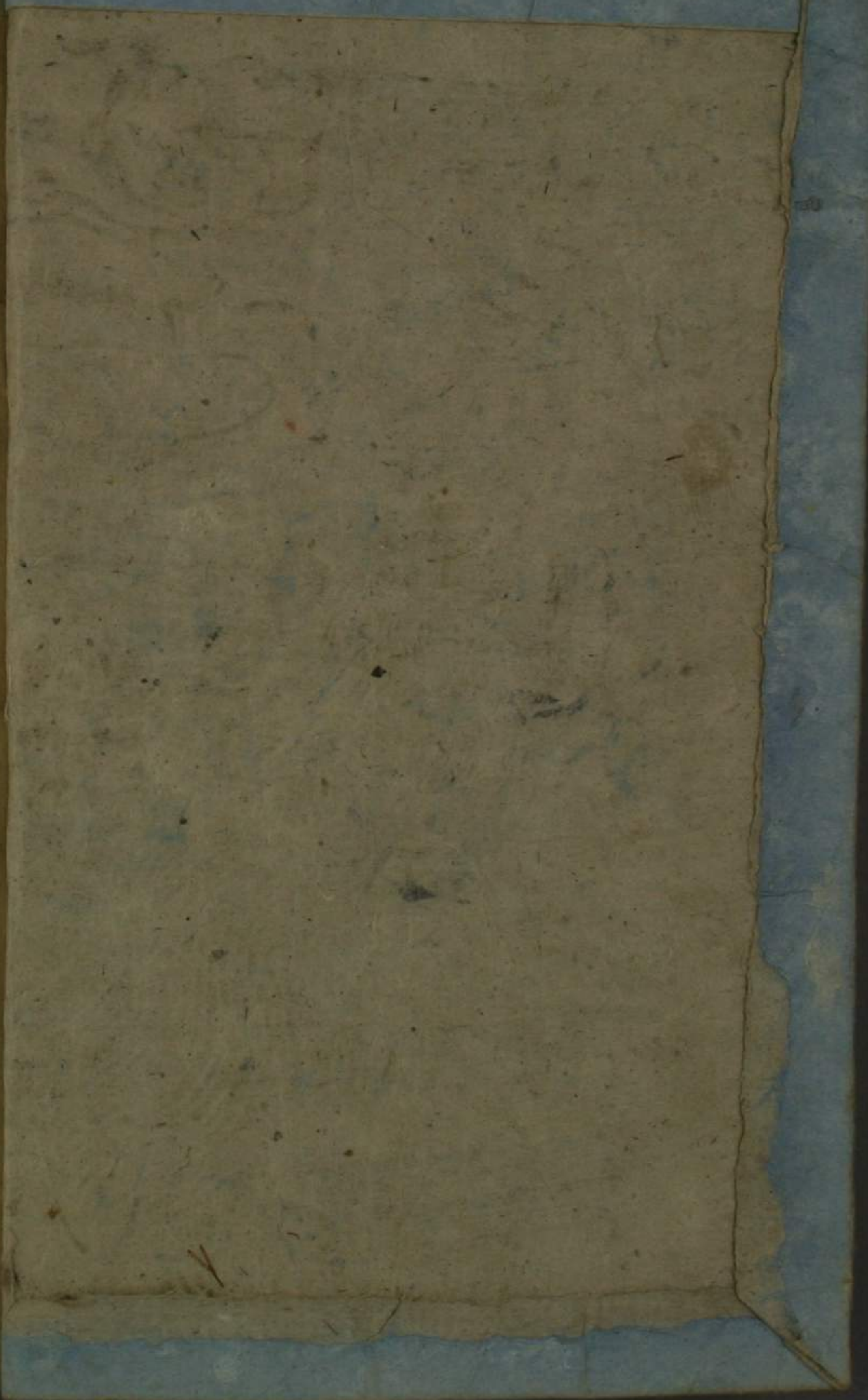


文外子集

文外子集

卷之...

...



よるまを長敷の之を御孫渡世に
年毎に四ヶ所結國の結立する老翁の
事結するまありて是程いさまのき物なし
東國の人の伊勢より大和系大坂に國九所
まも心不舊法神社佛閣を八回西國の
人等伊勢より江戸麻島島永日光奥州
松島象沼法州若光古まを物も回ると我
取ふりされど家内息災もて家業繁栄の
法主人の勿論ある養子小玉と伊勢系

宮此苑の御孫まのり結立する我
神國乃有めきことありや柞士農工商
結立する家業を凶毒よりくちり結
結らまきは一日とて食まある生渡
あ穂小者一樂む事偏に神佛の教試
事の感應するなり一結するその中に富貴
結人まも生得病ありんまのやまも
思ふとも自ら結り一結後勝量を見
山坂を歩り大山靈場も結るる阿ん

偶々^{たま} 驚^{おど} 籠^{かご} 入りて 籠^{かご} 入り されとも 痛^{いた} 方^{かた} まで
 心^{こころ} のある 金^{きん} 銀^{ぎん} 財^{ざい} 寶^{ぼう} 子^こ 阿^あ 一^{いつ} する こと あり 者^{もの}
 壯^{まこと} 健^{けん} なる 系^{けい} 系^{けい} 子^こ 阿^あ 一^{いつ} する こと あり 者^{もの}
 富^{とみ} 貴^き 子^こ 阿^あ 一^{いつ} する こと あり 者^{もの}
 賢^{けん} 妙^{めう} 子^こ 阿^あ 一^{いつ} する こと あり 者^{もの}
 知^ち ず こと 是^{こゝろ} なる 事^{こと} 希^{まれ} ひ あり こと あり
 相^{あひま} 疑^ぎ する 人^{ひと} 叢^{あつ} 忌^ぎ の 日^ひ よ 里^{さと} 嗜^{たが} む 者^{もの} は
 醫^い 家^け 來^き 阿^あ 一^{いつ} する こと あり 者^{もの} 股^か 引^ひ 子^こ 鞋^か お 一^{いつ} する
 解^と け ず 者^{もの} 阿^あ 一^{いつ} する こと あり 者^{もの} 喉^{のど} 牽^ひ 阿^あ 一^{いつ} する こと あり 者^{もの}

正^{ただ} 正^{ただ} 堪^た 忍^{にん} して 咳^{せき} せき と 痰^{たん} 痰^{たん} の 能^{よく} 治^ち り ぬ べ
 知^ち ず 一^{いつ} され だ 治^ち り ぬ べ 治^ち り ぬ べ の 能^{よく} 治^ち り ぬ べ
 昔^{むかし} 一^{いつ} 一^{いつ} ぬ 堪^た 梅^{うめ} 子^こ 遠^{とほ} あり 者^{もの} 一^{いつ} 一^{いつ} 事^{こと}
 張^{ちやう} 着^{ちやく} 阿^あ 一^{いつ} する こと あり 者^{もの} 大^{おほ} 一^{いつ} する こと あり 者^{もの}
 感^{あは} れ 風^{かぜ} 白^{はく} 子^こ 阿^あ 一^{いつ} する こと あり 者^{もの} 又^{また} 一^{いつ} する こと あり 者^{もの}
 早^{はや} 朝^{あさ} 一^{いつ} する こと あり 者^{もの} 露^{つゆ} の 深^{ふか} き 一^{いつ} する こと あり 者^{もの}
 の 痛^{いた} き 一^{いつ} する こと あり 者^{もの} 感^{あは} れ 一^{いつ} する こと あり 者^{もの}
 生^{なま} 一^{いつ} する こと あり 者^{もの} 痛^{いた} の 一^{いつ} する こと あり 者^{もの} 道^{みち} 一^{いつ} する こと あり 者^{もの}
 偏^{へん} 地^ち 一^{いつ} する こと あり 者^{もの} 腹^{はら} 一^{いつ} する こと あり 者^{もの} 痛^{いた} 一^{いつ} する こと あり 者^{もの}

乃ふしもの何れとされとも我ら内にて業療の
 子當さるやうなるものあらん長徳の報難千
 幸の善いなるもの必き徳の善い徳の
 け徳といひ又諺も可成る子とい徳をさすを
 一とやふまはき徳せぬ人の体名
 報難を志すして徳の樂徳の為とする
 採ふ人の徳人徳の徳人の徳の徳の徳の
 陰とて人の徳徳とて多の徳の徳の徳の
 大名公家此貴徳方とて徳の徳の徳の徳の徳の

河海の外に乞武の徳徳と出有るとして知下
 況や平人の徳は我修すべらんや徳世よの人
 其徳難を徳徳とて徳の徳の徳の徳の徳の
 思ひやらん人の徳人とて徳の徳の徳の徳の
 子孫徳業あると現徳の故に可成る子とい徳
 をさすなりといを教徳いあるべし徳徳と余
 徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の
 を知る友人の徳秋徳とて徳の徳の徳の徳の
 徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の

心づかぬ色はわらひ顔にそつとよき筆に物々
 又におもひ懸ぞんめやひさしく是とて人々も徳め
 考へたるを集めよふ又旅の物もよふ旅なき
 とさしつて思ひ出さぬ任々おつとよき小冊を
 たりしそ攻を防む為に人のきむむふ従ひ
 梓にちりしめめろく旅り用集よふ名
 法くふふと志このまゝ

文化元年六月 八海堂菴 景里

惣目

- 東海道勝景里數
- 五岳真形之圖
- 水替用心之事
- 寒國旅具并圖式
- 山中狐狸猪狼防方之事
- 船中酔たる時の方
- 落馬志る時の方
- 道中泊りて蚤を避方
- 湯氣にあたる時の方
- 道中所持すべき物の事
- 木曾路勝景里數
- 道中用心六十一條
- 寒國旅行心得之事
- 寒國ナテンキ之事
- 船中用心四ヶ條
- 駕籠に酔たる方
- 毒虫を避方
- 道中草臥と直方并妙藥
- 道中所持すべき藥之事
- 道中日記志る方之事

日の出入之事

月の出入之事

日和見様并古歌諺

旅立の歌

大日本國正真縮圖

諸國御関所

諸國道中附

一年晝夜長短之事

潮の盈虚之事

旅行教訓之歌二十一首

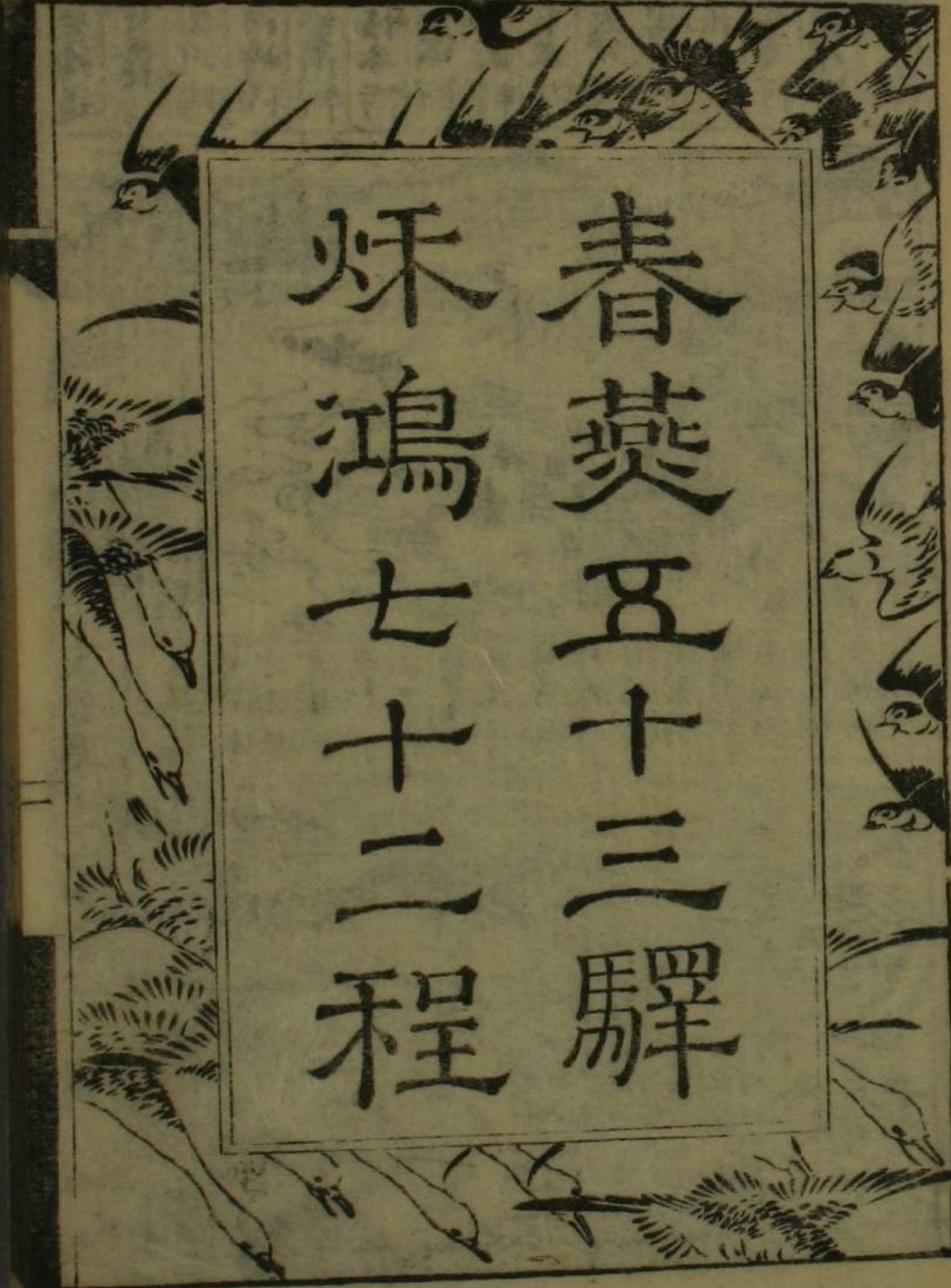
白澤之圖

諸國温泉二百九十二ヶ所

西國秩父坂東觀音靈場

○伊勢恭宮道 ○伊勢大和廻り ○秋葉鳳来寺 ○名古屋中仙道 ○宮越前道 ○如賀信州道
 ○江島鎌倉道 ○大山恭詣道 ○伊勢田丸越 ○大津大坂道 ○伏見大坂下船 ○大坂紀州道
 ○法房房總道 ○甲州宮主道 ○江府日光道 ○水戸海道 ○江府鹿島香取銚子道
 ○白河會津道 ○會津越後道 ○米沢信濃道 ○兼折秋田道 ○秋田津軽道 ○外国之里數

春燕五十三驛
 秋鴻七十二程



吉原判
 蒲原判
 昇判
 真津判
 江尻判
 府中判
 まりこ判
 岡谷判
 茂枝判
 嶋田判
 金谷判
 日坂判
 掛川判
 袋井判
 見付判



物産判
 大田判
 伏見判
 細谷判
 大谷判
 大井判
 中津判
 落合判
 馬込判
 妻籠判
 ここの判
 野尻判
 上松判
 福嶋判
 宮越判
 萩原判
 なる判



東海道
 日本橋判
 品川判
 河崎判
 加川判
 程谷判
 戸塚判
 荻原判
 平塚判
 大塚判
 小田原判
 箱根判
 三島判
 沼津判



木曾路
 京判
 大津判
 草津判
 守山判
 武佐判
 高宮判
 鳥羽判
 番馬判
 醒井判
 柏原判
 今頃判
 関原判
 赤坂判
 合渡判
 加納判



厚味寺
 左野
 龜山
 関
 坂下
 土山
 水口
 石巻
 葛原
 大津
 京都
 九行程
 谷百七
 四里半
 十五丁



板鼻
 高崎
 倉野
 新町
 本庄
 深谷
 熊谷
 鴻巣
 桶川
 上尾
 大宮
 浦和
 板橋
 江戸
 九行程
 谷百三
 十五里
 十一丁



浅松
 舞城
 荒井
 白加
 二川
 吉田
 油十
 赤坂
 有川
 岡崎
 池田
 鳴海
 宮
 東名
 甲府



松田
 坂本
 榎本
 省掛
 追分
 小田
 岩田
 八ヶ岳
 今月
 芦田
 長保
 和田
 下流
 洗馬
 本山
 妙山





旅行用心集

道中用心六十一ヶ条

一 初^{はじめ}に旅立の日^{たびだちのひ}は足^{あし}を別^{わか}り静^{しず}ま踏^ふ立^たる^る鞋^{くつ}の加^か
減^{へん}お減^{へん}能^よ試^し其^{その}二三日^{ふた三日}の間^{のま}を取^とりて夜^よに体^{てい}足^{あし}
痛^{いた}ぬやう^{よう}ふさぐ^ぐ一^{ひと}出^で立^たの苗^{なえ}生^はは人^{ひと}心^{こころ}
を痛^{いた}ま^ま始^{はじめ}終^{おしま}の種^{たね}を^をた^たた^たる^る踏^ふ立^たる^るの^のなり
足^{あし}を痛^{いた}ま^ま始^{はじめ}終^{おしま}の種^{たね}を^をた^たた^たる^る踏^ふ立^たる^るの^のなり
一 足^{あし}の中^{なか}に持^もた^たる^る物^{もの}は外^{あひだ}に^に文^{ぶん}事^じを^をし
て一^{ひと}品^{ひん}教^{きょう}多^{おほ}く^くを失^う念^{ねん}物^{もの}お^おも^もく^く却^{かえ}り煩^{わづ}

五嶽眞形圖



抱朴子云凡修道之士棲
隱山谷須得五嶽眞形圖
佩之則騰翹精怪莫能近
之昔漢武元年七夕西王
母降於承華之殿進蟠桃
命仙女董雙成許飛瓊等
奏雲傲度歌曲而為武帝
壽又以錦囊書卷示之則
此圖也故知五岳為萬地
之尊其形天真則世人渡
江航海隨身帶之可却風
濤之儉所居淨處香花供
養必降禎祥歷有奇驗可
不敬哉

五岳ヲタツ
ト六ハ書
舞典ニ始リ
和漢コレヲ
尊信ス
ヒサニ世ノ人
山坂河海
ヲタル此圖
ヲ帶レハ風
波儉難ナ
ク且壽福ヲ
祈^{いの}其奇驗
アリ本丈
ニテシルベキ
ナリ

けききののなるま

一 駱舎へ到着して第一ふき他の東西南北の方
角をのぞきつふま他雪隠裏表の口におを見え
置り古教有りを火或ハ盗賊又ハ相宿も喧嘩
ホアア時のためなり

一 道中初々する輩馬駕籠人乞の利阿ふ平
中に亭主もあひくおむ一相ふひくは進中
もてあやうりあるま性面阿人へ怒り一は時若
然もの涙一おむなり 相阿何時出ちと背
よるもあや付其制限ふ應一まるあお程ふ

自起あおを不起時いおを起 一 臘の利立

さうさうふ支度をはいふ 一 子種成んを身に
して臘も向ふなり 一 さあなれば人馬の利立も
自他と等用もありてふらわら合阿一き
なわ様もていお様さのふは法成ちてさきば
ふおし一怒りを知り

一 物いせり一き故持てるもの泣落ものあれを音小
よくお志く用ふ用の心細成して風呂敷を包
おちくさぬよよんおん 一 足袋の床の中おち
たくほとふおし一せされおおそくおるあま

朝のおそき一匹のをくれとあそび
 一様有い乞有い勿論其道筋初而小く不
 肉あらをぬふ家他子よき振るる白濁屋一泊る
 一様有い乞有い勿論其道筋初而小く不
 在心付なり一歩、悪中は人々の脾胃中も
 食物消化一づこ一因初志らぬ魚貝類
 筍菌瓜西瓜餅強飯の類多く食ふたのら
 ず交は食傷よや、雀乱ハ發一強
 及ふと何と、寒秋冬は交に準一知一



清輔
 虫の指と
 あやまなり
 よそに
 又くつ
 字此
 ちんや

相病の操子を忍び交りしを中よき人おひら
は先成先へいま登りし是れをあはれ乃争ひ
よる物いひ出さるものなり様い物をを相操
にすまを身の益ありと多し

一 疎の和を致しう時玉極熱居風是をよりも
欠しく入をそ致すそをその熱を致し洗ふ
べしゆ熱を致すあを逆上するものなり

一通の様をて操あよ急をてなくを教を交
和まへのゆ熱を致し九日路の前あは十日ふ
てひくんとすれたいそきて教道おするよりも利益

多きとありのなり又河賦おの致合ありきおと
そ致し致あふなり

一 暑中いそ熱をぶお慎むべし賣女の濕主あ
至暑中い尤熱しゆかし情をなきことあり又
教具もく濕を交するのされを香氣のゆれを
懐中してそ濕邪を懸る

一 夏結さ中い抄く濁て水を飲らも清み成るも
飲る吉池又い山あよそよく澄流さる
谷水ホ湯は香だそのゆ必ず毒あものなり尤
五苓散の類を懐中して水をのむる

夏の原野は毒草毒虫出敷多かれん
 毒草毒虫出敷多かれん
 然中蝮斑猫の大
 毒あるては皆人此
 知ころ之を外諸
 虫の中無毒虫よて
 めおは猫て毒ある
 そのにあふ時蛇
 蝮もををぬの
 あつとて内虫毒
 蜂蟻蛇蠍蜘蛛
 蛇の類ひ小至ると

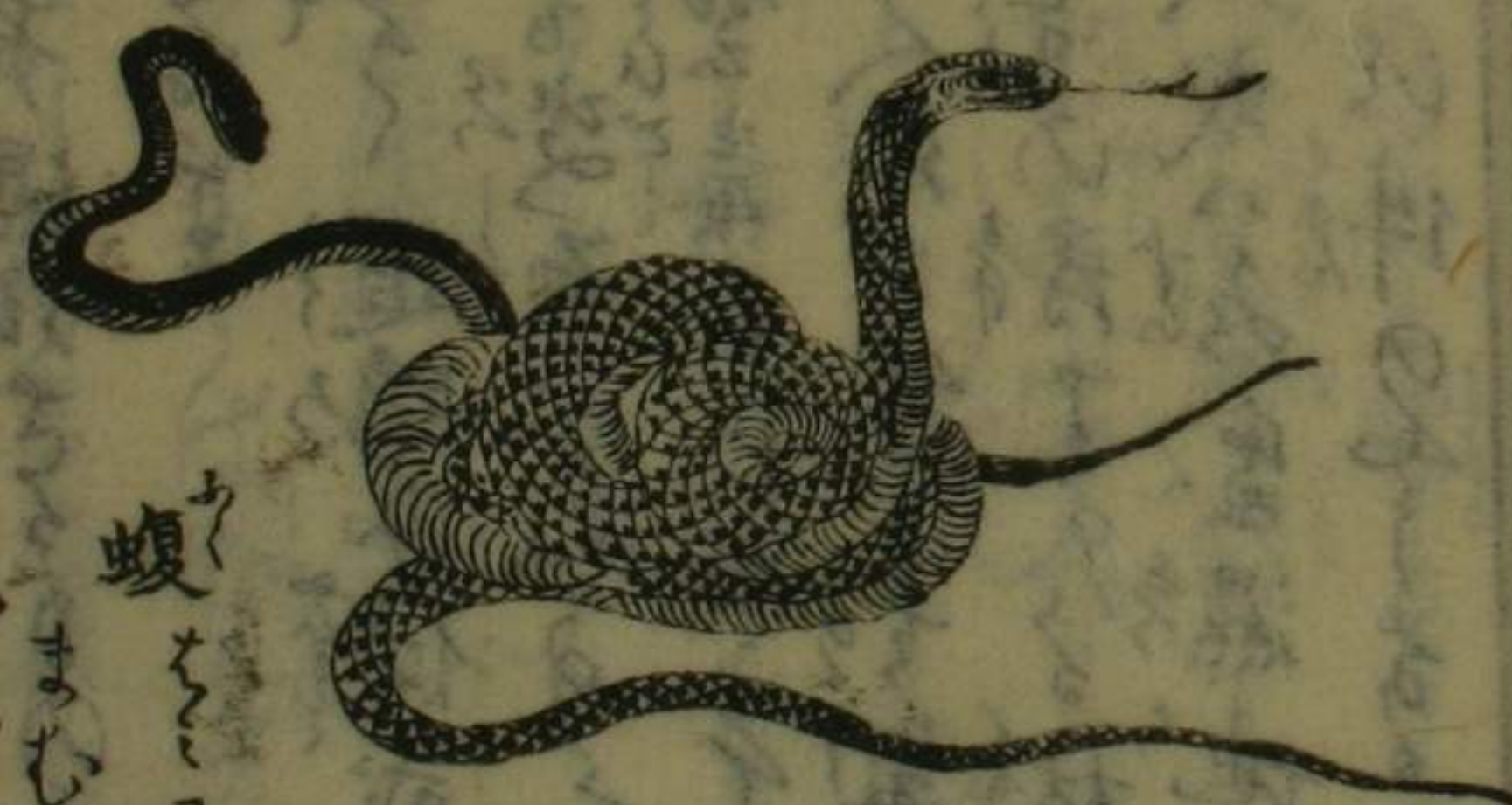


唐斑猫
 色微黄
 和斑猫
 色黒



蜥蜴 和名とらふ
 石籠子 同物
 山籠子

用ひてききとるり
 温熱の地と暑濕
 別而甚し毒草
 異虫も多きと故
 人法うれて山野に
 休むとをそ亦の心
 はあそきてとるり
 毒虫よをききとるり
 妙業ホの末のそす
 了の亦あり



蝮 又反鼻蛇
 色黒黄あり種類多
 大毒あり



烏蛇

又と山椒胡椒の類にかあらん怖中はとく
山中の草をさす濕気さるものさるくさる
末の葉の葉も何と

一夏の旅人疲果く道路小休或ハ草むく
伏眠人あまどる変而せぬる之夜の醒る
は毒虫多し一羽毒まき虫も毒あるもの
寄宿多し小人然せざる毒氣をぬめれ
且古き宮寺の蔭にたる林又ハ山中に巖
岨亦ハ入或ハ水邊濕地亦涼きとく
長休息さるる一件のやあるをよは毒濕

きとめくやののたのま懼る

一食及ふそ成必ず急歩行すべし又馬駕

籠もあふとくも急歩すべし又馬駕

落るお城しそ毛飯の法立もは後同和

ゆんよ氣成塞し何とんるなり

一大小便は法ありと成あへて馬駕よ改而

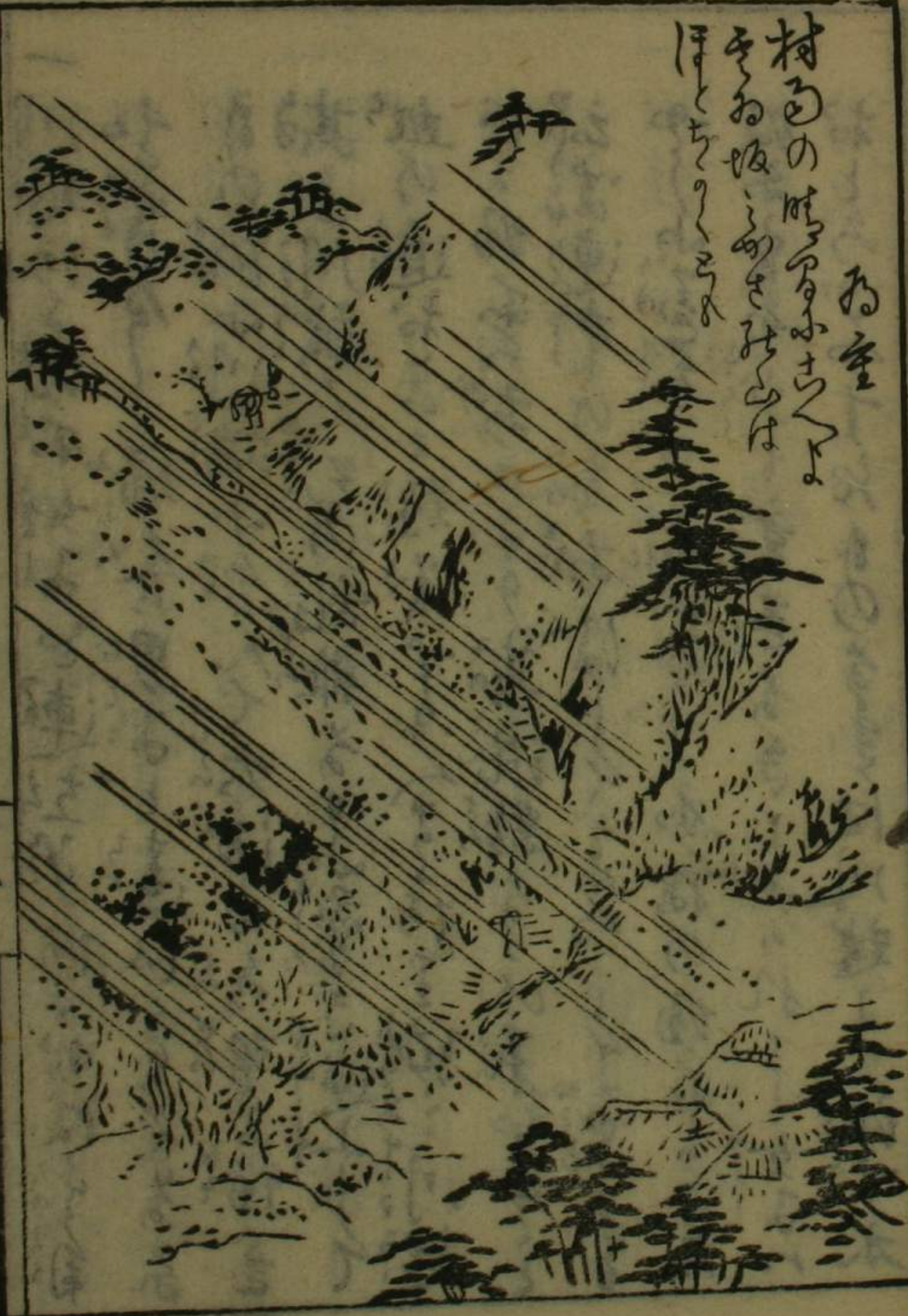
をすべし馬おせば心を突死するもの

一人馬の先觸れはあは出立の目よりとく日

こあも物すなりたるたれい年申とて

たるとそせんなきものなり

造り 河越の番の倉はより入
 のより河越に張す板掛おとあれいぬやふ
 用ひすべし越前川越の場およてい流物粉を
 物心背べきあり附るる明前あまのいそよて
 傳る通院お駿河屋より惣すりおを里あへ
 一橋先より志々ぬ川からり 安而さへい
 又出ぬよて橋を流しからり 船渡しあま
 ぬるありか採の場おの右後へ通合なり
 自分おあますべし法よりお後へ通合置は
 何よりありける能ののあり



おま
 村の町おま
 がお坂におま
 けくちのま

一 舟は安船繋るるす
 一 色をさうとて舟を移してはるあるをさうり
 要用していつのころをたうぬを中あうと成失
 陸地を通るなりゆきを中されを船を
 をり色をぬきぬ思のゆふ追風よくて益の
 りも智とをぬき遠あう時は後悔はた
 せを知るる 船中の用心のありあり
 一 出舟の河の登之小川もすも釋んと云ふは渡る
 なるのゆ出舟の揺る舟の揺るのゆの流る
 なるは怪事河のものなり又山をき國の河を

川の登り滑りぬくは川もすも雷解又の
 夏田の雲も夕立おあれを俄に河の増るは
 川もすも雷のゆ廣がるなる故本橋の揺られ
 ぬなり固初冬のころ半を雨の為小坂橋成
 なるゆわすおお毎の出舟の流るる則ち東海を
 の酒自川奥浦その白津大田系するの川乃ぬきもの之
 舟も山國もと云孫の川もすも一件のゆもある出
 舟の揺るゆわすはか浦舟もすも見ゆは橋
 を渡り渡るなるゆ出舟の橋揺揺るゆ
 流よりある橋を渡ると流される人河の

一 森の陣つぎきたるあつりよふらひのあつりよふらひ
すくあつりよふらひのあつりよふらひのあつりよふらひ
此泊屋又川崎ふらひのあつりよふらひのあつりよふらひ
あつりよふらひのあつりよふらひのあつりよふらひ

一 その中あつりよふらひのあつりよふらひのあつりよふらひ
あつりよふらひのあつりよふらひのあつりよふらひ
日記帳あつりよふらひのあつりよふらひのあつりよふらひ
あつりよふらひのあつりよふらひのあつりよふらひ

一 その中あつりよふらひのあつりよふらひのあつりよふらひ
あつりよふらひのあつりよふらひのあつりよふらひ
あつりよふらひのあつりよふらひのあつりよふらひ

一 その中あつりよふらひのあつりよふらひのあつりよふらひ
あつりよふらひのあつりよふらひのあつりよふらひ
あつりよふらひのあつりよふらひのあつりよふらひ

一 問の商又ハ操舞する事ありキ 操舞有ク泊リ
 阿るらん特無愛ものあり 結とも不自由試口
 外も出さずあるやらう物いひ高物戸を
 お用心をさるる事 秘事なり
 一 皆人他國へ出まは物いひ風俗いらくお移り
 巴が國言葉も違ふあまの列人あまぬ中は
 おうーとせよあまを又先の人をばあをわ
 せ思ふハ必然あり志をまんぬちうい
 他國の風俗ものいひおああうと誤と志る
 一 人の詞を異言と口論となるもの

一 ぞ中もく謡小うと漸 珊瑚ホ口すけ
 以をばあより附くおるる事 是も口論の
 端ありと志るなり
 一 ぞ中もくちあふるる後ものいひ喧嘩口論博奕基
 將基村踊村角力變死人殺生場也而人立多下
 おん斗ひあるなり
 一 高ひ筋あうと外用又ハ湯治先物系或ハ河留
 おもても逗留する折塗炭ハ勿論わけの基お基
 変初すなごのいび且自就の知る高ひあうと
 子出せぬと事あり 利益より事起る事大ひを

止め給ふをば此方の連中にて酒宴のすむ
までかゝりて一人々不寐の居て長酒のりて
むのりこれ出まゐりのなり

一馬の重き務まるものありおろきとひ出時河を
て飛下つては荷物と並附居り荷物曲り
地子付はを人全下つてうろろ人飛下まゐる

らず怪事すりのなり
二月はを中にて田をるふ紫時を紫下り
あやふ付たり田をるの目と不使休めたり
候つふあま喜言のりて駆出すありん

紫をききなり

一夏を中より馬は紫をるいんあつたり馬は
虫に付たに時とるひるなり又紫人も夜の眠り
付くあまなり因り山坂河端おろるなり

老人小児いぬいんるまゝきこなり
一を中より相寄れ中を紫種妙紫木の下
まをるもの試すむとる紫影いおむり

一飛脚は荷物材料箱の人軽き有といふ客か
へたり

ありさる紋ありと知るなり 書状の金浪より
 色争きしてあはく 万一五落し 孫を承る時
 主人の要利を欠のちならず 大目と人ふ
 めしすしてあまきはらるあらんきとあり
 一 是中一ざの大小の極く 短き杖を 杖を
 刀長脇差又ハ目立ちたる 極おま風の 杖を
 用田つゝびおとさる 杖を 杖を
 一 石連山小者雇人おの出立おふおを 杖を
 是中一とて 病死おとさる 杖を
 杖を 杖を 杖を 杖を 杖を 杖を 杖を 杖を



雲ふれんうたのきりぬ
 山ありしつきのあ
 去るねなるむ 昨時

白屋美^{ごうや}堅^{かた}新^{あたら}よりもつれを黄^{わう}ひ^ひ置^お置^おなきに
附^つるも一人^{ひとり}格^{かく}又^{また}の回^{まわ}國^{くに}する幸^{さい}の寺^{てら}院^{いん}又^{また}恆^{とこ}中^{ちゆう}有^あ
べきあり^あ勢^{せい}外^{がい}を中^{ちゆう}入^いる人^{ひと}もはそ^そる^る憂^{うれ}なきと
のた^たる^ると^と知^ちる^る

一 一^いを^を中^{ちゆう}も^もて^て日^{にち}蝕^{じやく}あ^ある^ると^とわ^わく^く体^{たい}も^も全^{ぜん}蝕^{じやく}す^すん^ん
歩^ふり^りす^すべ^べく^く月^{げつ}も^もく^くも^も同^{どう}様^{やう}あり

一 一^い道^{だう}中^{ちゆう}も^もて^て神^{しん}社^{しゃ}佛^{ぶつ}閣^{かく}の^の勿^な論^{ろん}揚^{やう}立^た本^{ほん}又^{また}大^{だい}石^{せき}あ^あ
系^{けい}外^{がい}張^{ちやう}れ^れあ^あ改^{かい}す^すべ^べく^くい^い
右^{みぎ}六^む十^{じゆ}一^{いつ}系^{けい}の^の外^{がい}産^{さん}立^たる^るも^もの^の此^{こゝ}末^まに^に改^{かい}す^す
も^もく^くい^い

水替用心之事

一 一^い皆^{みな}人^{ひと}他^た國^{こく}の^の出^いま^まへ^へ又^{また}七^{しち}四^{じゆ}代^{だい}中^{ちゆう}の^の形^{かたち}を^をて^て成^{なり}の^の腹^{はら}
全^{ぜん}あ^ある^る感^{かん}の^の逆^{さか}上^{じやう}成^{なり}の^の雨^{あめ}使^{つか}ふ^ふ通^{とう}感^{かん}の^の斑^{はん}小^{せう}
瘡^{そう}も^も持^も病^{びやう}の^の外^{がい}なる^るもの^の成^{なり}憂^{うれ}ふ^ふと^とあり^り何^{なに}國^{こく}
も^もて^ても^も一^{いつ}天^{てん}地^ちの^の中^{ちゆう}な^なれ^れの^の同^{どう}く^くも^も地^ちの^の氣^きを^を呼^よ
吸^ひする^ると^とも^も水^{みづ}の^の替^かる^るも^もた^たと^とて^てさ^さの^の好^{この}み^みあ^あ
なき^きと^とら^らは^はな^なる^るれ^れと^とも^もさ^さふ^ふ何^{なに}も^もす^すま^ま國^{こく}の^の風^{かぜ}を^を
も^もよ^より^り湯^ゆあ^ある^るも^も限^{かぎ}ら^らず^ず暖^ぬま^ま候^{こう}人^{ひと}等^ら食^た物^{ぶつ}
に^に至^{いた}る^ると^とあ^ある^るも^も意^い自^じ厚^{こう}存^{ぞん}奉^{ほう}て^て兼^{かね}并^{へい}か^かし^し
た^たる^る山^{さん}川^{がわ}の^の魚^うを^を解^とけ^け池^{いけ}に^に放^{はな}す^す時^{とき}は^は志^しが^がら^らく^くの

同好ふがぬし其國取の氣候一
一月と二月と居馴深ぬるは必ひ好く道理
さりて申用ん河をきとさり既よ其東の
時侯と京大坂の好く先より西國九州に至れば又
お之小國越後美御守ふ御而は又接唇の相
違なりそ好の海濱島よ及んはそ名
を形狀のお車をもて捨てたるなり
因り暖國に人々を國へ引寄せ居る事なり
を國のよ暖ふへりては中をそ稀之古昔八丈
の人太勢江たへ乗り居く痘瘡麻疹は流行

よあひ果て死しるは何りおおんくち地もお
癒せざる有るべし於此を國物種湯治は
仍のホホ昔足の日よりす月もちざるは飲
食起居おのと試大切おとべしそ申嗜と
よき不との業はあよくりりりあを

寒國旅行の事

一 其御小城の旅行は好飯試志しむるを志
く用んあやそ國の九月の末より十日まであり
十月夷諫治より障雪の地とふはあり
山上野のそ路を埋し且そ雪の雪あり

粉雪あけくやぬ田もて風は吹ちられく雪吹
のぬー況や海田は勿つよ一も人つもの雪耐
のよえはくそ跡人跡の目あて更ことす
公用の人の雪譜人足をもりしきくをある
すれども時の旅人はそれもあるは道向へき
くの種さり跡もなきをえうーあひて本なる
出まことあつてすしーとあふくすあやう初雪
此後を雪上戸なりとも大酒交しす
うす大酒すれは方熱しー雪吹然すそを
せぬん地もされども山壁の海雪を跡に

論田も畑もあく一面の平地もなるゆへ酔舞の
元身もて方角をきひ海き海漁もあつた
ゆもてえ死人多し一むらりあつたあつた
ゆもてあつたあつたあつたあつたあつた
酔てあつたあつたあつたあつたあつた
厳密ふ冒れく神鬼氣力を果くあつたあつた
吹ふあひ絶倒する正何を故小海もあつたあつた
たよひ雪吹くよ志つるあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
死する人多くと戸も大磁のよなる中流きり

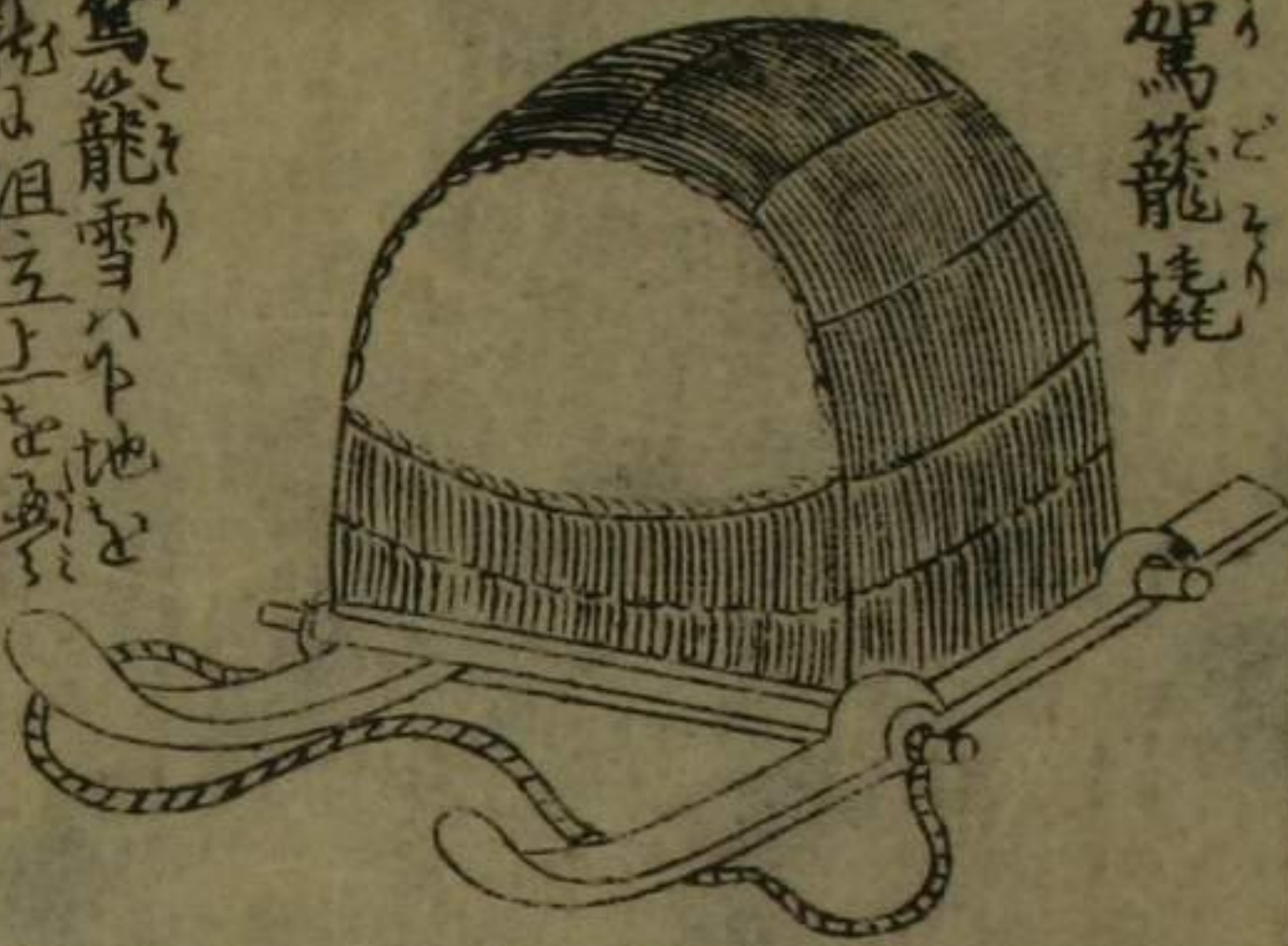
一 雪吹ふあひたる人々もいへば見えなく候き
 又の氣分あゝ〜ゆる人をあゝ〜むるも人葉
 火を焚初めのを火あして温むべ〜又さ〜る
 人を風は〜の〜初めの御極ゆる〜し〜
 る熱くす〜火多ふ燃火あつき湯よあてる
 時は逆上〜と寒く〜あり

寒國旅を〜國式之事

一 雪中 籠りの紙衣 羽衣 皮衣 のものを
 下着 小用 田舎 雪國の 冬 雪 氷 氷 氷
 減雪の 湯き 湯き 湯き 湯き 湯き 湯き

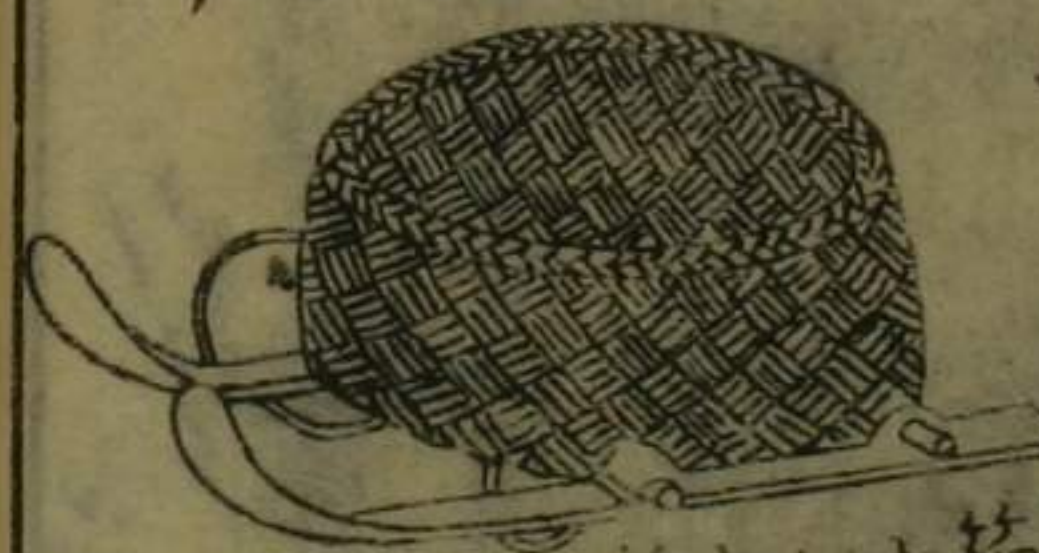


駕籠籠

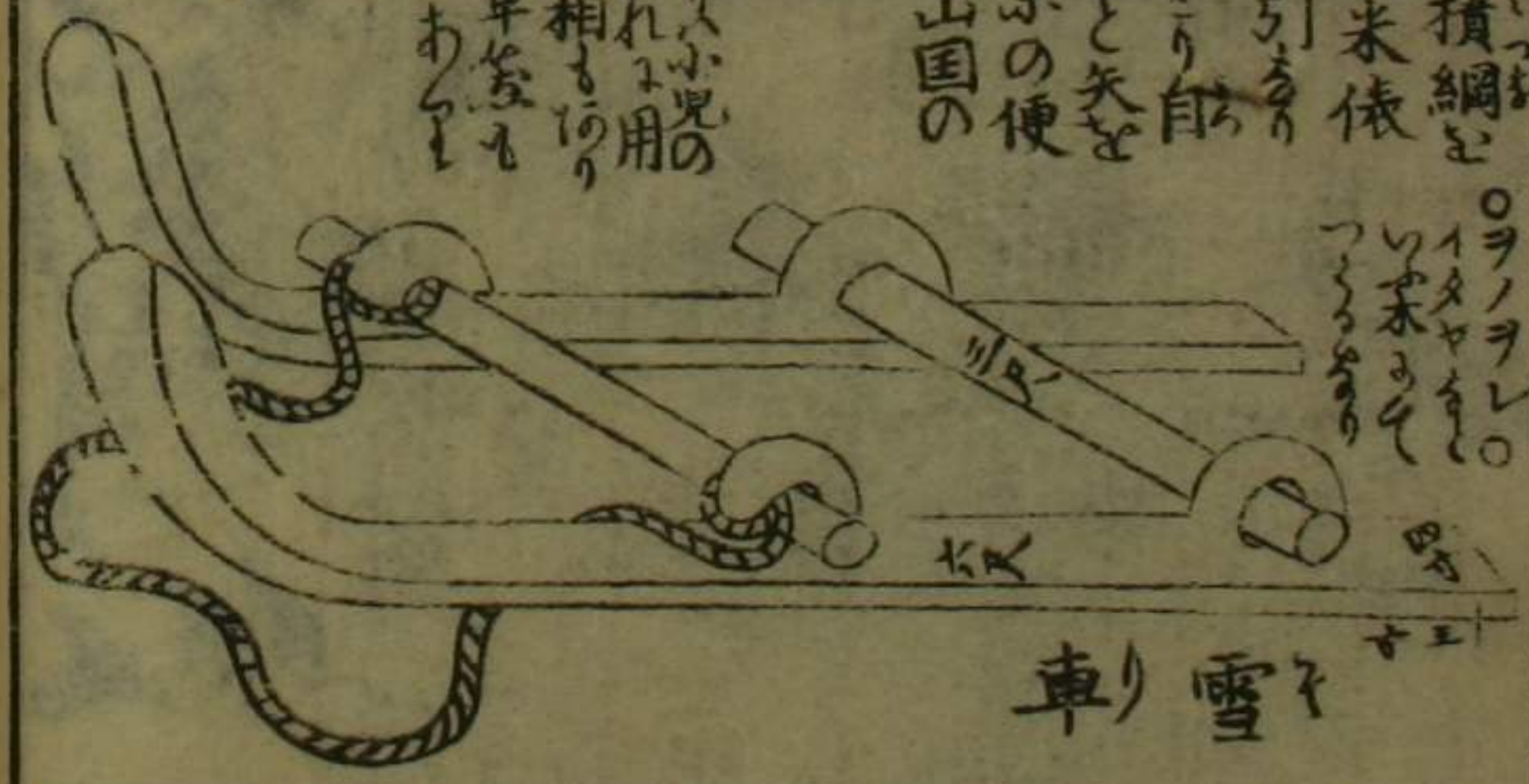


駕籠雪ハ平地を
走ル組立上を走
表もて包みたるもの
を常の雪車に附
刀のゆかりあり
且不入り常は駕籠
より遠き者多く
雪を用ひ

雪車の物荷積網を
肩へかけて入る引米俵
五六俵計七八俵と引
山坂の荷杖を挿し
舟なり



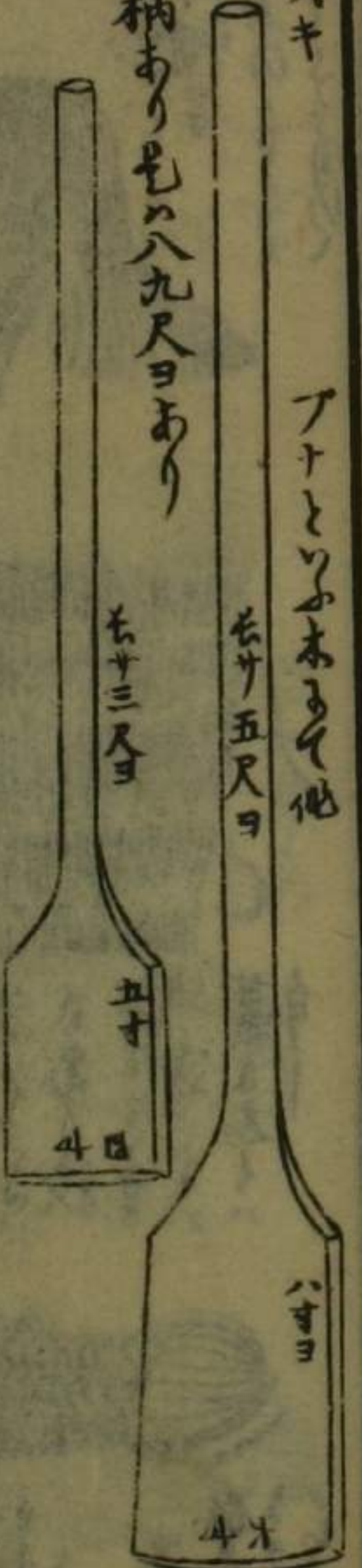
箱積
小児の
箱も用
草袋も
あり



雪車

カウスキ

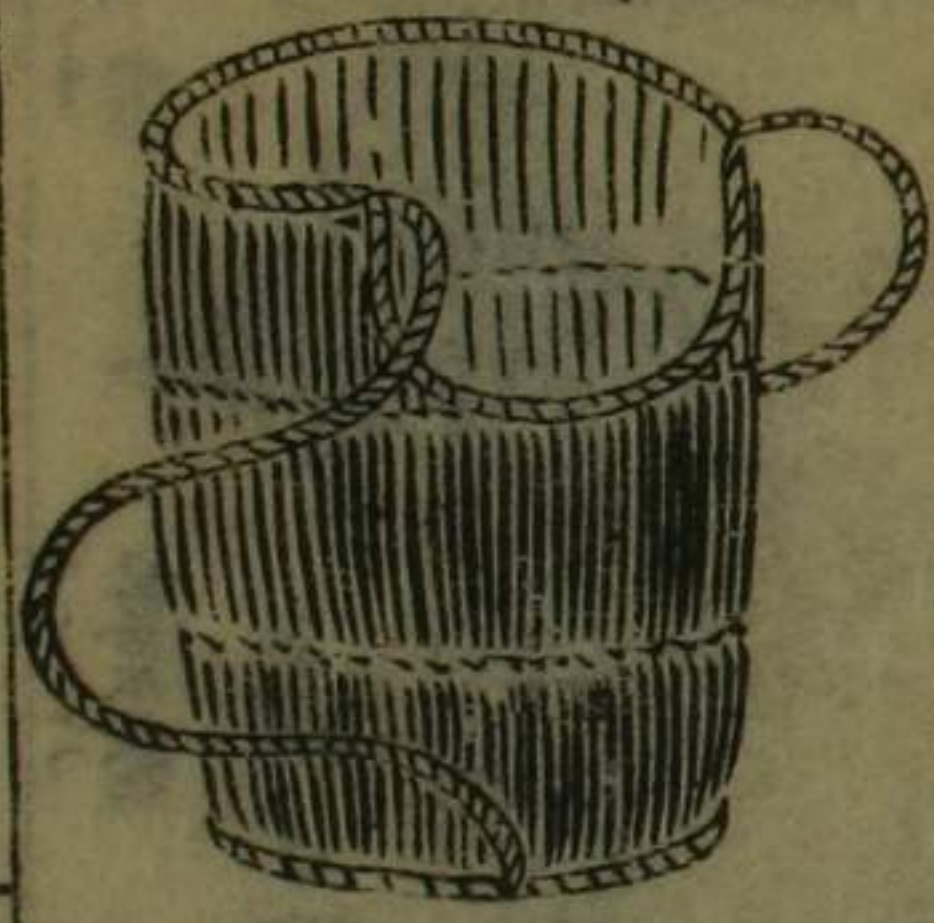
外ニ長柄あり
長サ五尺ヨ
五寸
四寸



ゆきゆきゆき
のゆきゆきゆき
あり又大雪の
又小児外も
雪踏

雪踏

葉もてゆき
なれは雪の
とつて又米の
俵用ありあり



同上





雪吹を
あせま

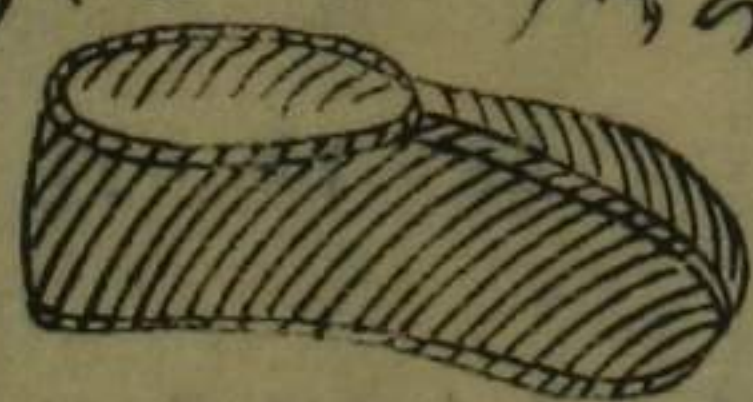
ドモコモ

毛ハ本物
アツク
を入り
や、氣を
くよき物
あり町
まぐ利由

くまん
毛ハ本物
アツク
を入り
や、氣を
くよき物
あり町
まぐ利由



源兵衛
藁
付
麻
木
竹
町
毛



上 同

毛ハ本物
アツク
を入り
や、氣を
くよき物
あり町
まぐ利由

毛ハ本物
アツク
を入り
や、氣を
くよき物
あり町
まぐ利由



同く



兜頭巾
長範頭
らりの
毛綿

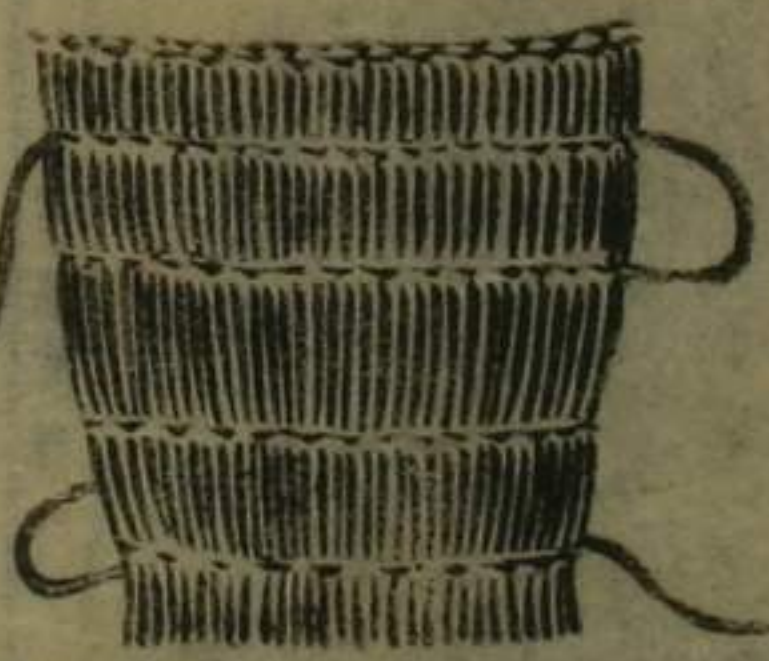


毛綿帽子
製



藁笠

藁笠
毛
付
麻
木
竹
町
毛



藁
毛
付
麻
木
竹
町
毛



又
又
又

此山跡は生草すく人こそナテのトは押付られ
て連死すく人すあやまは殺すあや人いんとも
喰くべきやうき又も其に食する人衆を海法
有ても早速其雪成屈穿てて死骸を求ると
阿そんは夏も死て雪の満るを待外も長に
か採るる死を生草すく人の王用要用の事
此時におぼれ其暖を考へ其土地の人を採るを
尋ひ通る人そおの人もあつて温もあつて咳
一つも容あつたぬやう小性も歩けりもその
教するより既に余津より越後へといふ上州

よるま之國とて有る此山中もそのナテワキの類
多て死する人此石塔あり

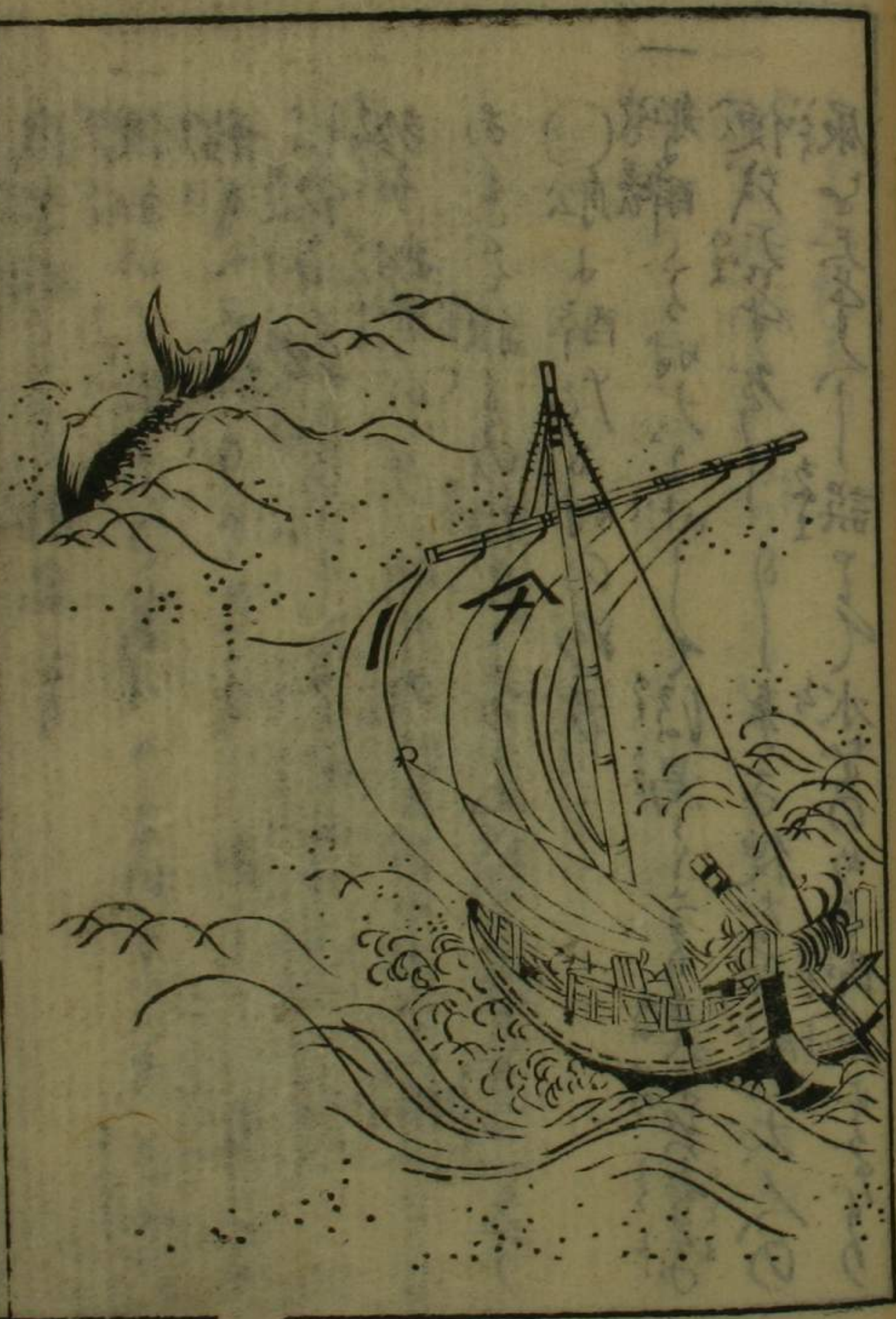
山中まは狐狸猪狼の類近付さる方
一深山野原の道を生草すく人を連ある時お
吐き出するもえ熊狼の類分をかくまひ一人
松まてい人牽るるもあ道傍をふ休居する
獣不圖人ふあやなにおもきく人よ啗付て死す
独との白中あやなをさきてるり左採のト
ふあやなをねをさるりよあ深山曠野に人里ま
きお成は生草すくおの作杖の先を割き叩き

音をりて歩りまをり又石突有枝を法
 きてしよりさきれを魚飲出之又夜を法
 火繩松明あけ持ち歩りさの難き又平此
 蠶成る種のを〜ぬま山をりへ魚飲并
 蛇まひり毒虫おそれるをけひといふ
 一 五岳白澤北西國法中すれは旅中の災難を
 免き魚鬼猛獸を付とあふぬ
 一 狐狸の取らとて勿らそををひ或はをを
 たり或は川あきお川とをり門あきふ門成
 鎖の鎖を糸解く所の奇怪をたしとあふ

を心成るを思てたごとを吾れ備ひぬ
 元來の事を考ふるを
 のの事を立座里人あ〜まの種を成る
 たり〜如此すれは狐狸も誇るを〜とあふ
 然り心成るを思てたごとを吾れ備ひぬ
 らん系をいふ肝要のりあり

船中用心之事

一 船中系たるは先船中の諸事を板等
 の板有る成るを置べき之類大風或は早
 風あふ〜船中〜と守る時を板等竿の



たふひよそとおつこをみぢへ入る ぬふすれぬ
 我あしぬ人も沈まぬしは助か
 一 海とつて大奥の船 附纏ふとあまを
 は石をすて船中人 我成りて 板元又は
 音あつきのを叩きまきをき奥のつまなり
 一 船の漂ふて籠まきあれを俄に海とつて
 あまをさるる波濤湧之り大渦をす海とつて
 まるる河りを折ら船はしるるあるとあれは
 名をすて抜るおまのたつておまをす
 一 波の渦にふさるるなりそのまら船

成家ぬくると肝要なり

一 便船の人敷多きにあしきものなり第一念金れ
程多し又船中人のまじりて魚一ち船中ける
は能く船中の言ふ事つせ必ずあうらふなり
扱ふ船中の言ひ船中の法式あてて忘るるも
あましく船中の言ひあましくぬ採ふするも
○船中酔たる時の妙方
一 船酔する時大に吐しては渴くなり其後吐き
便成らずなり一 酔る時水をも即死するなり
尿を吞ずる一 誤りて水をも即死するなり

法を志むるなり

舟に乗時に河の舟を一口吞ん船中ぬこ
一 船に乗時に陸の舟を一口吞ん船中ぬこ
あててなれを舟中酔るなり
一 硫黄紙の包を懐中すれを舟中酔るなり
一 又方付本を二枚人よきせし懐中すれを舟
中酔るなり
一 又方法よき醋然一口飲てより又梅子汁含てし
又生大根の志を汁を吞てより
一 酔嘔吐する時半夏陳皮茯苓の

三味をおらせんと飲てよ

○駕籠小酔さる方

- 一 かに酔く人の駕籠の戸を開て坐る
- 一 南天の葉成を花のうらふ五生を足て坐る
- 一 若頭痛甚しくむ心わき
- 一 熱湯は生姜の末を汁を入りませ飲す
- 一 冷水変して吞す
- 一 女子馬かど坐耐のあを成細帯して走らうと
- 一 志めて坐る

○落馬走らう時方

- 一 落馬して若むひのり或は唾血交り物時
- 一 藕の粉を酒にて利田なり又連の葉を細末
- 一 湯にて吞す又腰足もて
- 一 早く止血の志みむききに斑する血河を早
- 一 速外科成れて出血をくすすれは傷の患ひを
- 一 其上導引す
- 一 馬の汗を大毒之食物又の目するへぬ採す

○毒虫咬ぬ方

- 一 能白ひ袋を懐中すれば
- 一 又乾姜と雄黄を細
- 一 末にして懐中して
- 一 抄布龍腦麝香樟

腦の乾香氣たのきりの成枝やれぬ

○道中泊屋まで蚕を懸る方

一 苦参といふ草成生のすくすく採取の一二入

置の登りぬるなり 最良草野山よりあつきの

をれをすすくすくあつきの採取なり 苦参此

園中何れに採取なり

一 根を採取し抱き採れを登りしとする

一 又棘参を乾く床の中に入れてす

一 又方枳實を沢山でんすをらん成ひしすくすく干

忌用すすくすくあつきの採取なり

苦参 和名 土槐

山形も多し 葉の槐の葉に似たり 花の赤や豆のむのめり

根黄白色より至て赤り

後ものろも入置の蚕をさす

草苗を生し 高さ五六尺に

直立を夏花

ひききて秋に至て枯



○道中より子忍を直す秘傳異奇方

一 子忍茶屋まで休む程子忍のまゝを
俯腰無名痛のらすを耐い少のるふくも子忍
成ぬぎよへあるを急交りしるるを休む
草臥直ると妙あり

一 旅なれぬ人々をひき又い忍にまめを滑出すはま
子忍のときや兼相あるゆへに子忍を調く
てよくおろし時にも忍のひはまるとなきやん
とくを又忍乾き熱出る故に痛く
まめも出まるとり因而おろし子忍を解忍

の熱をさす一 忍及りしるるを休む

一 子忍痛す耐いなく忍風入る後焼酎を
三里より三里のうらを吹付べし

一 玉極子忍たる耐は風入る後焼酎を忍の
三里より三里のうらを吹付べし

一 幸路坊しつ忍のつらみ腫痛は蚯蚓を泥
のまゝすりはしぬるを

一 子忍たる耐忍の三里承山通谷の三ヶ所灸せ

一 小園あまらんを
 一 忌のうへへあせ出出〜時ら半夏の細
 末を〜ひのうへへ押ませてぬえし
 一 又方煙その吹〜紙を〜ひも押交けく火を
 河多〜し
 一 又方藥種屋もて唐の土との物を調へ煎き
 〜〜のうへへあせぬえし
 一 又方本綿糸へ針を通〜糸糸へ矢立の書紙
 深ぬりまめ紙様もつきぬあ〜出て書まめ
 のうへへあせ痛止〜と妙なり

一 又方うんの粉をぬ〜ときぬえし
 一 夏の松も忌のう〜熱〜しむ時夏の葉
 をぬりぬ〜けぬ〜し
 一 夏の松も笠此下へ批の葉紙入かむまら悪筆
 紙〜ぬ〜ぬ
 一 毎朝胡椒を一二粒〜後せも夏重紙紙せひ冬
 は雷吹子あ〜し
 一 夏水紙飲時胡椒一粒を嚙〜〜吐て吞へ〜又水紙
 嚙て吞〜河〜し
 一 毒虫に〜し〜時延齡丹〜も蘇香圓よ

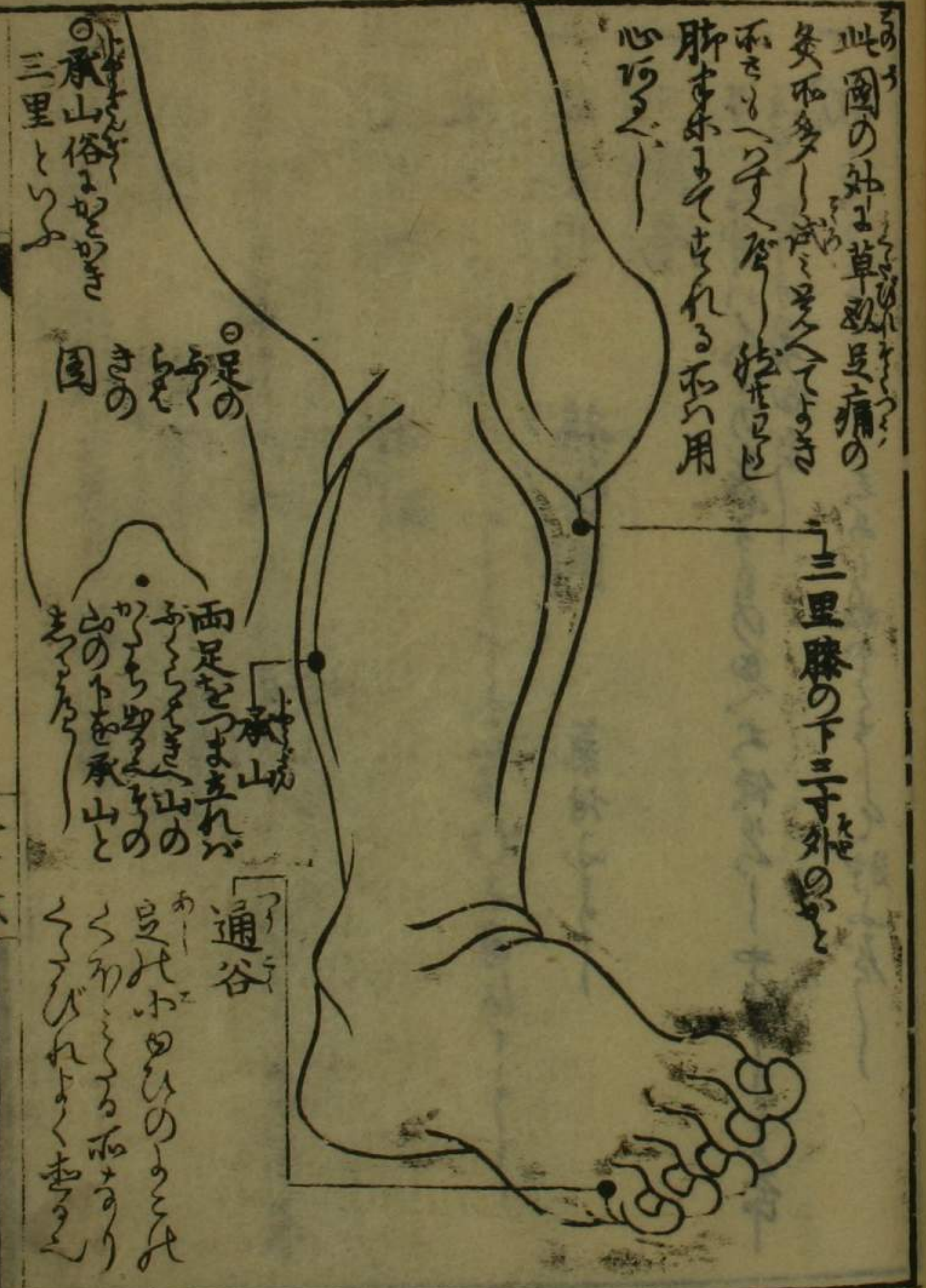
てはぬまきだての生痛はくさる
 一 田螺を湯油まで炒り乾置して塩を振り
 二 旨の内利のれたあまあつとを

○湯氣もいりまたう時の奇方

一 風呂に入ると時移し湯氣に中りたうのは
 冷水を洗面よりさうくぐぐぐ

眩暈甚しきものゝ物身に水気澆りけてよ

一 又方面へ水を噴きつけては後次解あつ揃まで
 幾らんかすあまの氣の付と妙へ又酢を少く
 飲まむる



○道中所持べき薬の事

熊膽 奇應丸 返竜丹

已上三方積又ハ腹痛食傷霍乱より此外々々あひの薬

五苓散 胡椒

水くすり又ハ夏くすりとして水をのむは用ひてよ

延齡丹 藜香圓 氣付みよ

三黄湯 是ハ在中ハくすのせきものゆへ大便らるやすしき中

切 せくさ ちあぬやうく貯るなり

一 備急圓

大食傷りて吐瀉しむせきる時は用ゆるみなり結する大方ハ生ラ

油藥 白龍膏 梅花香

此外を以流布す朝川の桂花香をとり切痲腫物毒虫

右の外ハ面々のおひ業育りのあれを搦るは手たる

○及中不持べきもの事

矢立 扇子 糸針 懐中鏡

日記帳 一冊

椰花 鬢付油

但シツミをうへ泊るまでツリ用ひたり又髪白ひも髪まきも只途中又ハ 市関所城下を通るをいひんのそまきるあり

挑灯

ろくろく

大おるや

懐中付本

是いたをを吾ぬ人も懐中付本をうへにさし置くのあんさうへきんやまきりの衣をさし置く

麻綱

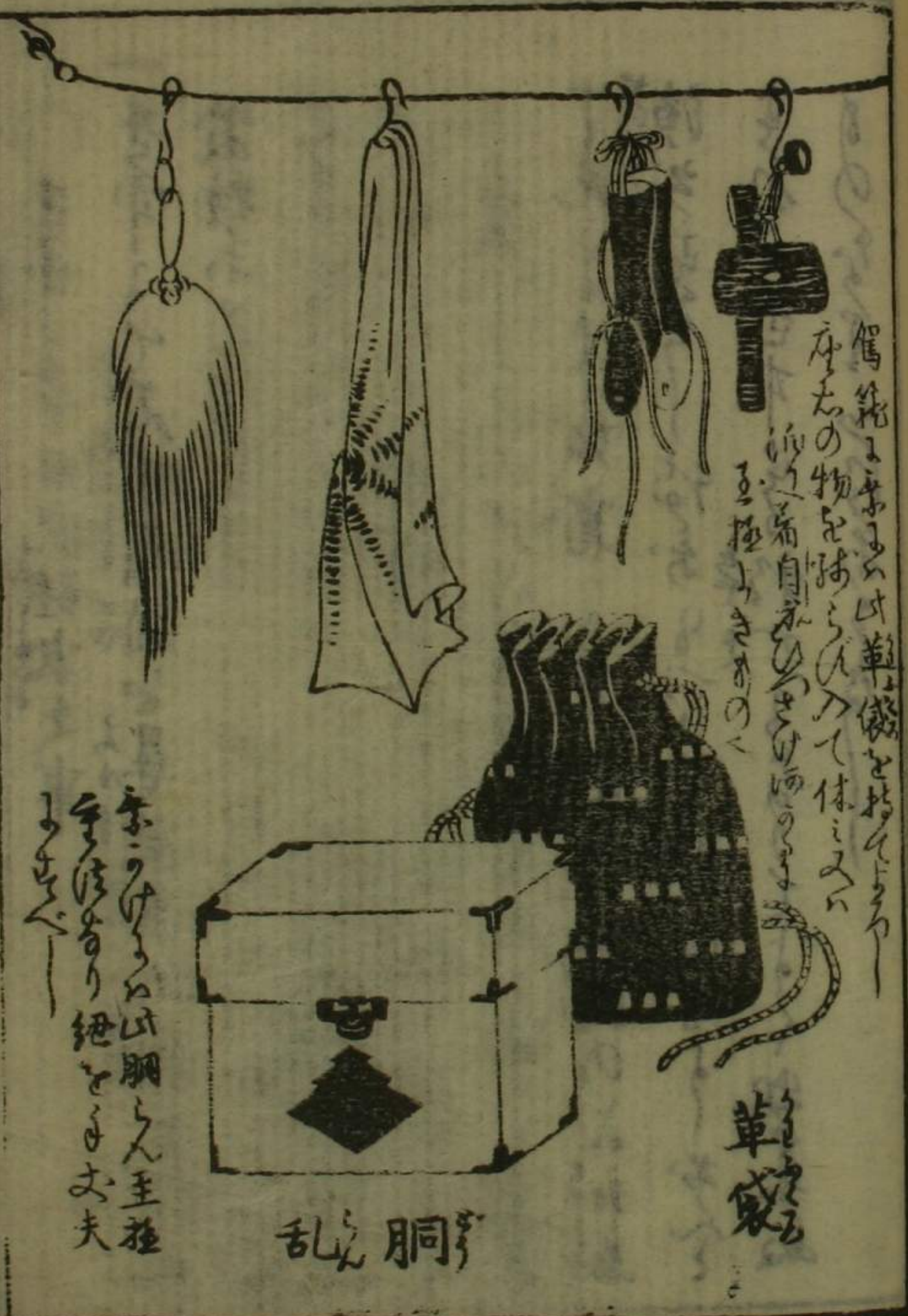
毛の泊るまで物おをまをひわくもま極よきまのこ

印板

是の家内へそを印をばし置括先をまき又書状を引合せ又金銀のる者おも其印を用ひるの念あり



山ツキ代をたれを中へそまき置るものこ



駕籠より来たれば靴袋を掛くより座敷の物を掛らん入て休まぬ

靴袋

乱洞

手ひくらのけ網らん至極手はかり紐をよ夫

○その中よみて日記廻方之事

一その中よみて名不奮跡を尋風景の能不又の跡
 後物お又すくくもさくく何月何日何時よて何を
 又とと有のまの書付め詩を連俳木の句心
 ようめきたる連続せむと其振を日記よ志る
 一置て又山川の真景おを画し海も其通
 に見るまの城寫し置追布海國の上流立
 浄おまをくゆあつてと冷國もよくおんと
 まれを中まの形たもろりてよくゆまぬ
 ののなるまのゆるあるる

○日の出入の事

正十節	卯八分出	酉二分入
正九節	卯七分出	酉三分入
二九節	卯六分出	酉四分入
二八節	卯五分出	酉五分入
三八節	卯四分出	酉六分入
三七節	卯三分出	酉七分入
四七節	卯二分出	酉八分入
四六節	卯一分出	酉九分入
五六節	卯時出	戌時入
五中	寅九分出	戌一分入
十中	卯九分出	酉一分入
十一節	辰時出	酉時入
十二節	辰一分出	申九分入

○一年晝夜長短六月の大畧

正月	中昼五十三半	夜四十九
二月	中昼五十五	夜四十四半
三月	中昼六十四	夜三十四
四月	中昼六十四	夜三十六
五月	中昼六十五半	夜三十四
六月	中昼六十四	夜三十六
七月	中昼六十	夜四十
八月	中昼五十五	夜四十四半
九月	中昼五十三半	夜四十九
十月	中昼四十七	夜五十三半
十一月	中昼四十五半	夜五十四
十二月	中昼四十七	夜五十三半

○月の出入の事

○潮の盈虚の事

朝日	酉四刻出	○十六日	酉四刻入	朝日	十六日	盈	九四分
○二日	酉八刻入	○十七日	酉八刻出	二日	十七日	交分	九八分
○三日	辰三刻出	○十八日	辰三刻入	三日	十八日	盈	五二分
○四日	辰六刻出	○十九日	辰六刻入	四日	十九日	盈	五二分
○五日	巳八刻入	○廿日	巳八刻出	五日	廿日	盈	四七分
○六日	巳四刻出	○廿一日	巳四刻入	六日	廿一日	盈	四七分
○七日	巳八刻出	○廿二日	巳八刻入	七日	廿二日	盈	四七分
○八日	午二刻出	○廿三日	午二刻入	八日	廿三日	盈	九二分
○九日	午六刻出	○廿四日	午六刻入	九日	廿四日	盈	九二分
○十日	未刻入	○廿五日	未刻出	十日	廿五日	盈	五七分

○十一日	未四刻入	○廿六日	未四刻出	十一日	廿六日	盈	八二分
○十二日	未八刻入	○廿七日	未八刻出	十二日	廿七日	盈	八二分
○十三日	申二刻出	○廿八日	申二刻入	十三日	廿八日	盈	七二分
○十四日	申六刻出	○廿九日	申六刻入	十四日	廿九日	盈	七二分
○十五日	酉刻入	○三十日	酉刻出	十五日	三十日	盈	六七分

○日和見様の事并古歌諺

一秋の九つ時 又七つ時よりと出 一は長夜之
 又五の四つ時六つ時の時 一はかたの月を日和田和まき
 又秋の又七つ時 又九つ時の時 一はまきと
 又止之 又五八つ時六つ時の時 一はまきと

僅ただす白しろ斗たうりりままてて何なにのの事ことなり

一 東風とうふうのの雨あめよよささるるううききめめののああれれぞぞ入い栞しやくとと土つち用もちよよのの事ことなり
つきつき多たるる雨あめももあありりとと○東風とうふう急きゆうああれれのの秋あき晴はりををははらら
せせとと○暮くれ夜よにに西にしのの方かたよりより吹ふ風かぜのの事こと○秋あきああ
風かぜ吹ふのの事こと○冬ふゆのの日ひ南みなみ風かぜ吹ふのの事こと○早はやのの霜しもををははらら
とと○西にし風かぜのの事こと○東とう風かぜのの事こと○南みなみ風かぜのの事こと○四よのの
波なみ志し々々のの風かぜ○夕ゆふ暮くれのの晴はり○雲くも飛とぶぶ大おほ風かぜのの風かぜををはは
ららせせのの事こと○赤あか雲くも飛とぶぶのの事こと○紅べに雲くも飛とぶぶのの事こと○赤あか雲くも飛とぶぶのの事こと
聖よ日ひ大おほ風かぜのの事こと○流星りゅうせい東とうへへ飛とぶぶのの事こと○南みなみへへ飛とぶぶのの事こと○西にしへへ飛とぶぶのの事こと
○月つきのの出い色いろ白しろのの事こと○月つきののああららのの事こと○星ほしのの事こと○星ほしのの事こと

あり。聖よのの事ことななれれ大おほ風かぜのの月つきのの入い光ひかりははららせせるる事ことなり
色いろ白しろのの風かぜ○虹にじああるる事こと○夕ゆふ暮くれのの晴はり○雲くも飛とぶぶのの事こと○赤あか雲くも飛とぶぶのの事こと
日和ひより電かみなりのの方かたよりよりああるる風かぜのの事こと

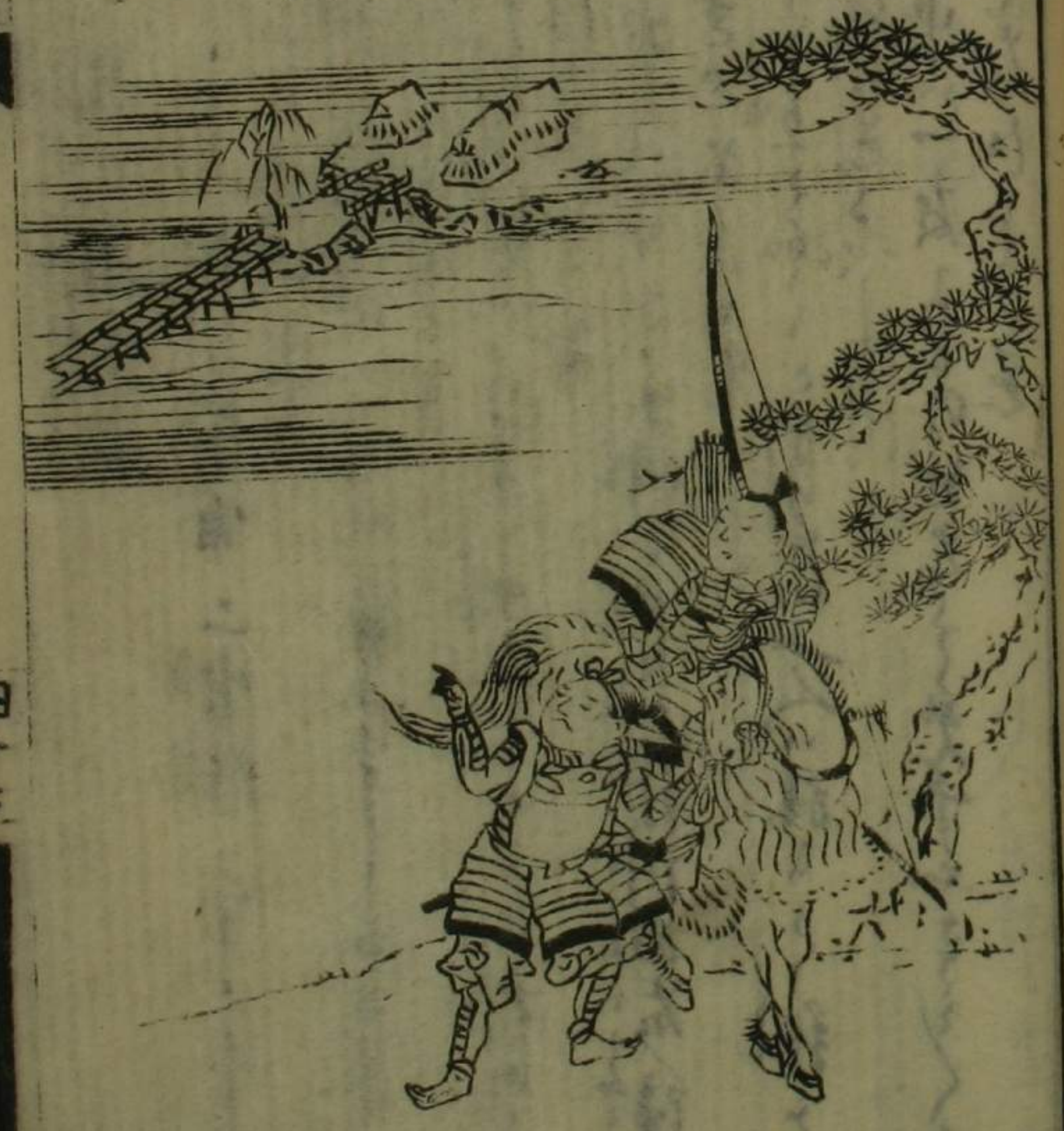
一 雨あめふふととしてして礎いしををふふのの事こと○山やまああげげややるる事ことなり
時ときのの陽ひかり風かぜ又また山やまををくくれてれて入いるる事こと○陸りく風かぜのの事こと○鳥とりのの鳴なりり
びびののああるる事こと○雨あめのの事こと○晴はりのの事こと○朝あさのの事こと○朝あさのの事こと○朝あさのの事こと
晴はりのの事こと○朝あさのの事こと○朝あさのの事こと○朝あさのの事こと○朝あさのの事こと
夕ゆふのの事こと○電かみなりのの事こと○電かみなりのの事こと○電かみなりのの事こと
ららととああるる事こと○電かみなりのの事こと○電かみなりのの事こと○電かみなりのの事こと
一 出いるる事こと○日ひ和なごのの事こと○日ひ和なごのの事こと○日ひ和なごのの事こと

あり大坂までいそぎの河一丑寅北方、ゆきをいそぎと
 のりあまあろえ又未申の方よりを出るこころい
 とれもあまあれも風つよく吹時の日和まぬる河
 一天一太郎八喜ひ夜古用之布寒に布とつよと天
 天上が朝日はあつるを天一太郎といふ八喜ひ多
 八喜ひ入く二日めをいふ古用之布といふ土用入
 三日めをいふ寒に多とらさる入く日め成りい
 もあれはあつる日はあふれはさる河一くあめ
 一天守時依の國下りよるをさるるい青いよ一
 いひやく一 大凡國東の西風を晴東風を

あまの國西の西風を晴東風を晴るる因
 古歌并諺
 波たれ浅間くろく晴鳴を西のあま
 旅もよしせよ
 又月あまあまを南よ秋のあまの東風を
 あふるを志れ
 春の風を冬を南のつを春の定障の葉
 降霧 照霧
 立霧 降霧
 西のきやうてつきを
 西のきやうてつきを

大の面白日和を知れ妙語をきかぬはさき
 秀立のうれいあり余れをたぬしえり
 毒あそびなりふんやきくそよき語ありあの
 吉方も閑坐して日和をたぬし考へるおたろ
 片一筋の日和のえんやうを確そ閑坐していふ
 山筑波山はさきたるまうく風面を志さるまを
 ぬくわくして目苗ありて知下之因布そ和めて
 こそわくしてさなき考へるへ一旅の日和のそ
 和換蓋ありしと川越船わくしおれありあは
 ぶししと手簡ありきまらぬ

おのぬれ
 やんせ乃
 日と海
 らうく
 やうも
 いそか
 まられ
 津田の
 長橋



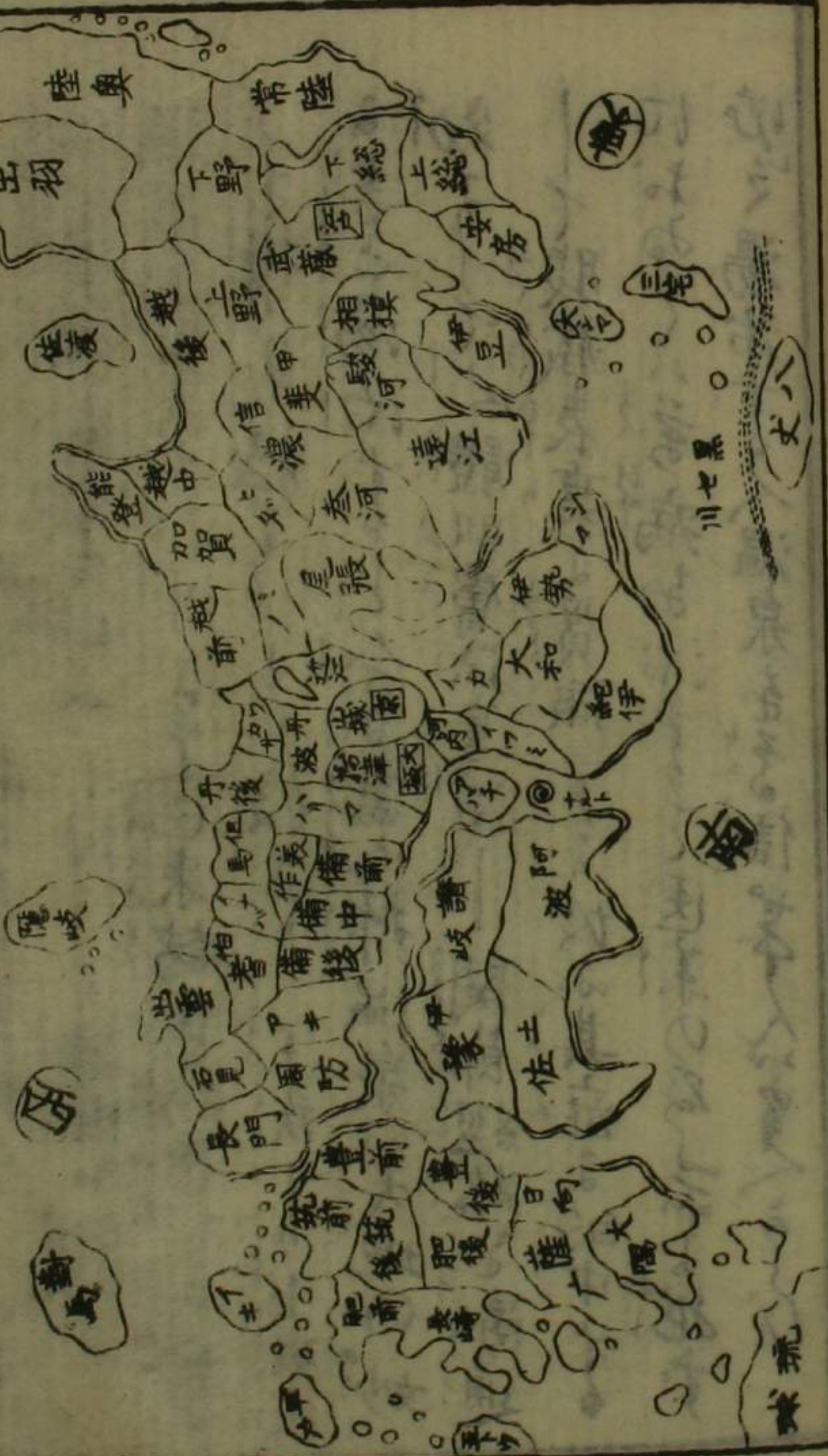
○旅行教訓歌

宿らるる一よす角二宮陰三よ産志まや
 けふと火のむや
 吾中は自由をせんと思ふす一ふ由をん
 すれど能あや
 長たびのさかいらうあきまう一とさめよ
 おほきめいつあ
 吾中此をを擲する人は川面を障
 阿きとおんせむ
 駈く立ちあ一とまうをい人の様よく給ん
 前記とまう一
 吾中一夜はものさ志しんんやましくい
 いたひもくも

吾中の食より何い少人の土地も
 又わつぬと志ま
 吾まににわれ風を味ひくくと思
 舟のせけつ
 上戸てを旅くた海をすづうひ折ま
 のめとるや
 旅中くたといと志しぬ川志ぬちら道
 仮初の船旅中ゆんだむあ一と産志ま
 けんくくめま
 吾ある日あつる一とあ一とあつるよ
 吾中いあまにんぞ一ありとる船
 まらあませま

南 部 大 日 本 正 國 圖

明 皇 天 用
御 宇 定 五
道 也 武 皇
御 宇 六 十
六 國



白 澤 火 圖



此白澤の圖は、
中まれば善事を、
まゝあて悪事を、
志れども山海の
災難病患をま
ぬるき開運昇
進の祥瑞ある
と古今云侍る、
而、因而旅中、
最尊信あり！

夫我邦の温泉は神代のむづ未醫藥のとき
まらざる時系民疾病大折の患ひを救人がたあや
大已貴尊宿奈彦那命と同諸國を巡行し
温泉を治すのいよる已來諸民病患を平愈す
るを得たり然るより後とい王侯より庶人
に至る湯治するといま蓋之折温泉は天地の妙
効ありて人體肌膚以膏澤關節經絡を融通
して腹藏表裏を貫徹する故其症は白的中す
におおくは系病を治すこと医業の及ぶ所也
必ず湯治する人温泉を信ずるべし

一 尤も著き不の諸國乃温泉は唯養生の爲小
湯治する人の勿論又物系極山をのりて旅立
其めありてよよ湯治する人の爲に思ふ
一見易やりに里數をか一効驗は大量を何々
依之其順路を随ひ此書小引合て尋求し湯
の効能不案内の場不其土地の人不能聞合
湯治す一病症よあり合不舎と何々と
ゆりあをふしをたのしむ
一湯治する人其温泉を病病あやと何とぬる
たゆ一スるよ初兩夜入て後胸腹をき食物

味ひよき相懸きとるを知る一ある夜入
ても胸腹より食代味ひあし不進い先不相應
とあるべし是亦のりいそち地との湯あり委細を
吐しそと入湯きし然ども二三も入て入れ
おのつろり松子まきるものあり

一湯治の仕方とあり一日二日中一日に三四夜
は限る相懸きより上ハ又七夜とあり
ゆび老人又い老弱の人の斟酌あるなり又多年
の病二回二回より不治のありあるは二回又一
一二月も入る

一湯治中病人の勿論無病の人にも禁ど憚む
るき物の飽食大酒房事冷る食物ホ之又湯
上りの物毛の孔用也外邪をうけやまふ
深山の涼風より又い清き水を浴び或ハ
風吹ふより補を變而まきやうび平生ハ外邪
よりも湯より小受うるあり甚し憚む
一温泉ハ熱し能く能く盤の如く底まで暖まるを
最上とす温くして濁り又の色整りたる湯ハ
下不あり然ども取まよる濁りたる湯は
ても毒温順し病は能く利湯も何一概に

いふぞりび又湯の源一口より湯を敷敷一石分
 すれども其効能夫より甚きあり必之
 温泉あり場不いらくに利めれ湯河も其を
 きば其不より極子をそくと湯を同言す
 いふるる名も温泉も其病症も因に相應お
 應ること何事なく能くは合く湯治を
 一諸州の温泉左に何るもの凡四十四ヶ國二百九十
 二ヶ所此餘洩るる温泉諸國にありあまとい
 ども偏く盡すりあまとい必くそ洩るるもの
 此書に追く加ふるなり

諸國温泉

五畿内

大和

武藏

信濃の葉

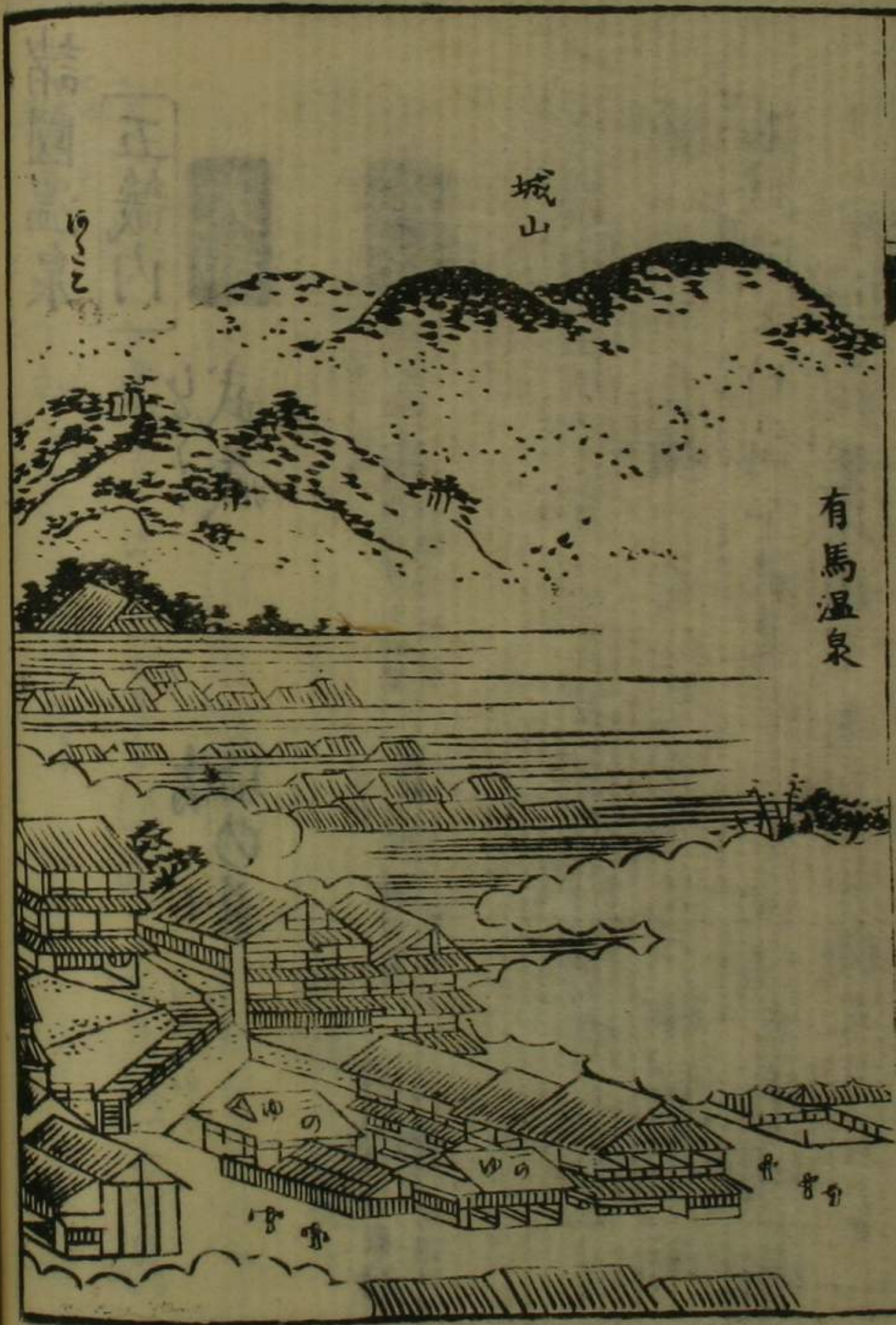
攝津

有馬 京より十四里 大坂より九里

多田 池田より

一庫 一庫村

一有馬の湯の浴室一字より湯槽深二尺八寸
 堅二丈壹尺横一丈二尺五寸底に鋪石あり其
 石の間竹筒を狭其中より湯涌生る其味鹹
 中間に板壁成隔る南を一の湯と北を二



有馬温泉

の湯より湯宿二十軒を二十坊より南小相
 分まり此外の湯を旅人を宿する小宿といふ二
 十坊の家毎に二婢あり一人は大湯女といひ通
 稱嫁家と喚ぶ一人の小湯女といふ是れ年毎に
 家へ代り通名を侍ふ此二人の湯女湯治する客人
 小湯の廻りを告げ免るるに於ては徳國の旅
 客混雑されども其廻りまふとて又湯と
 いふあり是れ湯幕を引いて他人をぞむ

一之湯 小湯女通名あり
 大湯女といふ
 夏ノ坊 夏女 伊勢屋 竹女 御取坊 栞女

尼崎坊 移女 称直彦 杉女 角ノ坊 若女

二階坊 栗女 大門 辰女 若狭彦 市女

中ノ坊 常女

二之湯

池ノ坊 松女 川崎彦 弥女 休之取 武女

河野彦 光女 兵衛 小夜女 大黒彦 竿女

水船 辻女 下大坊 鍋女 索麵彦 若女

萱ノ坊 紀女

一 妬湯 此湯ハ湯本谷町ニあり女子化粧ノ湯也

一 明目湯 山の湯ハ温泉寺の下ニあり眼病ヲ治ス
一 多田の湯 一名平野の湯ト云 浴室の廣方五丈
許中を隔て男女分ち入之ハ湯ハぬる湯を汲入
て火あくこころしく湯治す
一 庫の湯 是ハ多田より一庫村の山中に
あり此のゆゑ火あくわく湯治す

東海道

伊勢

菰野 此湯ハ山中ニあり溪水より入

ぬるき火あくわくして入る

遠江

蟲生

甲斐

川浦

下部

奈良田

塩山

黒平

湯村

伊豆

熱海

小田原ヨリ七里のいなりヨリ、根府川
御関取手形入此地温泉數多シ

大湯

上町ニアリ

清左衛門湯

此湯の側より清左衛門湯と

小く味いしく沸く大く味いしく沸く

野中湯 上町清左衛門湯の側より

法齋湯

下町ノ北野中ニアリ

此湯も守妻の

法高坊

と味いしく沸く大く沸く

河原湯

法高坊の南より南河原湯とあり

水湯

本町の北より南河原湯とあり

風呂湯

水湯の側より

走り湯

一名瀧の湯 熱海より半里ヨリ権現の祠の
南あり

小奈

東海五ノ島宿ヨリ三里下田海道あり

修善寺

日取ヨリ五里半名湯あり

よ〜名

日取ヨリ七里半

伊藤

宇佐美

湯ガ島

蓮臺寺

湯ガ野

北湯ガ野



○吉奈の温和すく酷らびを漬
 氣をぬめ肩を汲く時を極るあざこれ
 温氣をそへ老人婦人腰冷下血寒疝或
 中症ある羸弱の人よる温むる
 病症も効をほすを許まらうと
 一 豆州加茂郡肖廬山脩善寺の山風景唐土
 の廬山も似たりとて宋の西蜀涪江の浮圖
 道隆謚号蘭溪肖廬山と号つけ彼國理宗帝
 乃額其外奇品哉此寺も蔵も勝景最佳也
 必ず極るべきなり

相摸 箱根

湯本

小田原ヨリ一里半ヨ 湯本九軒

塔の沢

湯本ヨリ十二下湯本十二軒

宮の下

塔の沢ヨリ一里半湯本八軒

堂の島

宮の下ヨリ谷へ一丁ヨリ下湯本六軒

底倉

宮の下下キ 湯本四軒

木賀

底ヨリヨリ半及湯本三軒

芦の湯

底倉ヨリ一里一六下湯本五軒

祿定

一名 姥子

小田原ヨリ五里定湯本有

胡胡米

一名 子産湯 又 河内湯一モ

仙石原

新湯

○湯本の諸瘡瘍。下疳。瘡毒。揚梅瘡。

瘡濕。結毒。五痔。腰痛。癰疽。金瘡。小効あり。

○塔の沢。頭痛。眩暈。下冷。打撲。くちき。口舌

の痛。鼻の道。痺痺。喘息。血瘕。

○宮の下の五痔。淋病。風疹。疝氣。寸白。小効あり。

○堂の島。功効同あり。

○底倉の五痔。脱肛。疝痔。肛門の痛。

小効あり。小倡。湯治。

○本賀の手足。痺痺。筋骨。攣急。頭痛。痰

飲。撲損。閃朧。轉筋。痛風。小効あり。

○芦の湯ハ脚氣。筋攣。結毒。狐臭。遺尿
淋病。せうりら。小瘡。ホ子。効あり

○祿宅 姥子 効驗未詳

○あめ 子産湯 河内湯 日引

○仙石系 あら湯 日引

一右相州箱根の温泉ハ江戸より北里飯より
御園前よりあるは松尾道路の除阻なる
都中ハ老若男女湯治をすむつうきと
あらく陣子江の湯屋倉金ハ色勝地あり
氣味を散しヤチの湯ハ徳湯治場あり

尤此七湯ハ各の名湯にして熱湯と兄弟を争ふし
独々熱湯と其里数相隔ると僅よ七八里よりして互に
行々ものハ湯ハ効能に差列有を以て且此地東
都の便利最上とて其徳昌成と天下第一とす

武藏 小河内 甲州界之切痔抄也

安房 馬杉

常陸 袋田 月折山の下ニリ 大なるわしそへ

東山道

飛驒

下呂

蒲田

平湯

落合

信濃

田中 善光寺ヨリ六里

澁の湯 同取ヨリ六里半

角間 同取ヨリ半里

野沢湯 同取ヨリ北十里 山田湯 同取ヨリ東六里 熱湯 同取ヨリ子あはれ女によ

別取

古我湯

石の湯 此五去別取村ヨリ

玄高湯

大師湯

印内

田沢

内湯

山人湯 田沢村ニ

上諏訪 小綿湯

下諏訪 小綿湯

山家

七濛

浦野

白骨

浅間

上野

伊加保

高寄ヨリ六里湯 宿十二軒 壺湯ニテ取

萬坐

篠根

川原

四萬

澤渡

須川

沼田

川端

川中

法師ヶ峠

○伊加保ノ下疳 結毒 諸瘡 積聚ニ効あり

草津

高寄ヨリ二里 瀧水ニテ取リ ○諸瘡 頭痛 打撲 痔漏 癩風 癩風 惡瘡ニ効あり

御坐湯

地藏湯

綿の湯

熱の湯

瀧の湯

鷺の湯

一右伊加保草津の支那名湯小く優劣を
定むべし然るに伊加保の効草津は其の

阿の草汁の効伊加保に増るものあり其皆甚
 病疰より久し故に回國して其きおとす
 うらみ程相程と熱沛の如し

下野

日光山中禪寺

日光初石田ヨリ三里
 湯者八軒

御所湯

中湯

瀧湯

姥湯

笹湯

自在湯

薬師湯

河原湯

右各名湯あり定國在三月月中旬より九月末迄
 ちくく行く湯浴する人夏より秋夕の節
 少衣類おそ用とあり

日光山
 裏見瀧

棟多

中禪寺



塩原

聖徳太子作山ヨリハ六里半
又ち大川ヨリ七里あり

那須

荒湯

大丸塚

福和田

一 那須の湯は徳病も効あれども列而すむしは喰れ
た多人湯治せむ痛立而す退き病之は後難す

陸奥

會津

江戸ヨリ六十五里白川ヨリ西へ八里温泉多し

天寧寺

一名湯本

小谷

熱塩

沼尻

磐梯

荒湯

准人

五疊舗

一 天寧寺の温泉は玄付松の城下より東一
里餘山中 天寧寺村より西へは湯本といふ

湯有數十軒あり湯の源ハ一口

温熱寒冷の差別ありく其効能お之依り其

中の効能も多し入湯されば諸病も尤効あり

此湯ハ味も清涼なりて鑑の如く日本無雙の名

湯なり又其町中に熱湯一宇あり其湯の流人

草刈推着の教を入也あり此湯ハおより格別

熱湯を煮て玉而温順なりて諸病も効あり又

右の湯有のトを流る川を湯川といふ其川の中

にも温泉ありあり其中にも目洗湯といふ川

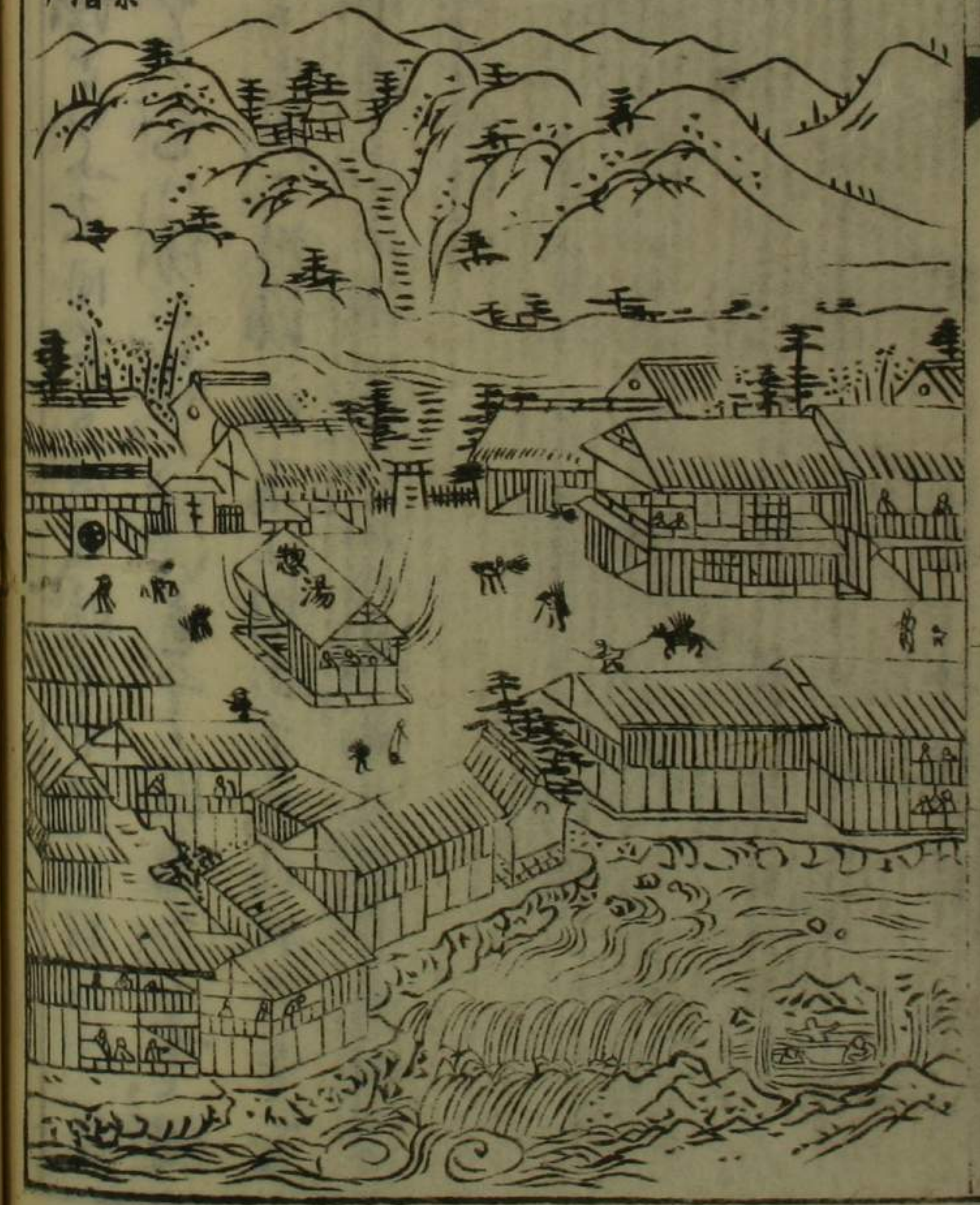
中より岩代國より一ノ月かゝる所より湧出る此湯
眼病を治す又猿湯といふ山岨此流の脇ありこの
流を猿湯が流といふ又此湯中より道沿ひ大なる山坂
なりこま下を伴の湯川流く大瀧をまゝ河を其
中より伏見が流とく雌雄の名瀑布二あり此流
の上なる山此腰より湯宿二軒あり是を流の湯と
いふ此湯もまゝ玉熱清浄にして諸病に効あり
且此地の山あり膝置画もい企及ふるなり
一 同國名松より小西へ七里餘あり熱塩村より温
泉あり此湯山中より一ノ月かゝる所より湧出る此湯

熱塩といふ又同所も鍵の湯といふ鏡とおろし置
湯あり是ハ傷小難く埃のまじり湯宿といふ
せうりて入る此湯法病に効あり又此所の寺を
慈眼寺といふ源翁和尚の開基也因而慈眼寺
の湯といふ

一 同若松より東北より八九里あり猪苗代といふ所
磐梯山といふ高山は山中より温泉多し是れ
地獄湯といふ夏日より入りて雪の消るを待つ令
湯治す此湯場ハ人希なり因而其場の湯宿
といふ年々新より大小を補理て貸し湯治す

會津
天寧寺
湯本

湯宿北軒余
毎家湯槽
二ツ宛アリ



人々米味噌鍋釜の類を煮て脊負を煮たり此湯
 は最大熱湯にて米を毎粒葉に包湯口へ入まれば飯と
 なりその外菜類菊のぶききの湯交りより湯
 法病に大効有きとも虚弱の人其猛烈な特て
 入り何れも其外國中四方に少くも温泉夥々
 有り餘國の温泉の記事多て世に知らるる畧之此
 地の江戸より僅に六十五里あり但馬に城崎撰州
 の有馬亦も湯のくき名湯なり其大畧を記す

青沼 川旅 折木 野神 嶽湯

土中 飯豊 温湯 赤湯 湯沢

飯坂 箱湯 瀧湯 湯村 狐湯

山熱海 磐城 折木 名取 玉造

鳴子 鎌崎 青根 東岳 砂子原

野神 湯本一名三箱の湯又 沢子の湯

湯入 湯原 湯岐

已上三十九所奥州白川ヨリ同仙臺南部堰マテノ

温泉ニテヨク名湯あり

○三箱の湯ハ水戸ヨリ北ニ二里岩城郡平比
城下ヨリ一里餘あり疥癬諸瘡ニ効あり

○湯岐ハ水戸ヨリ十里西北ニ撲損脚氣中風
手足不仁の症或ハ婦人腰冷の類ニ効あり

○二本松の湯ハ城下ヨリ二里山ヨリ夏月ニ
あつたれハあつたれと云々積聚痔疾ニ妙あり

○鎌崎の湯ハ歩身金瘡ニ最効あり

○青根の湯ハ頭痛積聚虫氣ニ効あり

○飯坂ハ福島ヨリ三里半ヲ左ニ羽黒山右ニ
信夫山をえて一杯森泉村松川河を村ハ互川

星の宿比良田村小川を渡りて飯坂あり
湯ハ五ヶ所あり 當坐湯 小湯村中ニあり

津輕

藏館

板留

岩木島

淺蟲

沖浦

須加湯

大鱈

碓関

已上十二ヶ所各名湯也

切明

湯端

温湯

下湯

出羽

赤湯

五色湯

銀山湯

上野山湯

高湯

温海

駒ヶ嶽

田川

已上八ヶ所各名湯也

北陸道

加賀

湯涌 金沢ヨリ
二里半

大聖寺

山中 金沢ヨリ
二里半

山代

能登

涌浦

越中

立山

山田

大牧

小川

越後

雲母

湯沢

村杉

今板

関山 妙香山
ト云

大内淵

眼掛湯

出湯 一名觀音湯ト云

大内淵

橋尾股

岩室

松山

山陰道

但馬

城崎

瘡湯

常湯

曼陀羅湯

新湯

御所湯

乞者湯

東槽

西槽

一城崎の温泉ハ日本第一の名湯とす其の中より
新湯瘡湯ハ其効能技羣をりといふ

因幡

石井

一湯

二湯

女郎

小女郎

大入込

新湯

右石井郡石井村ニアリ

吉岡

一湯

二湯

亀井殿

中湯

入込

荒湯

瘡湯

右高草郡吉岡村ニアリ

勝見

一湯

二湯

三湯

入込

新湯

鷺湯

右氣多郡勝見村ニアリ

伯耆

三笹

三朝の湯とあり

湯の関

出雲

三沢

漆仁川

玉造

潮村

石見

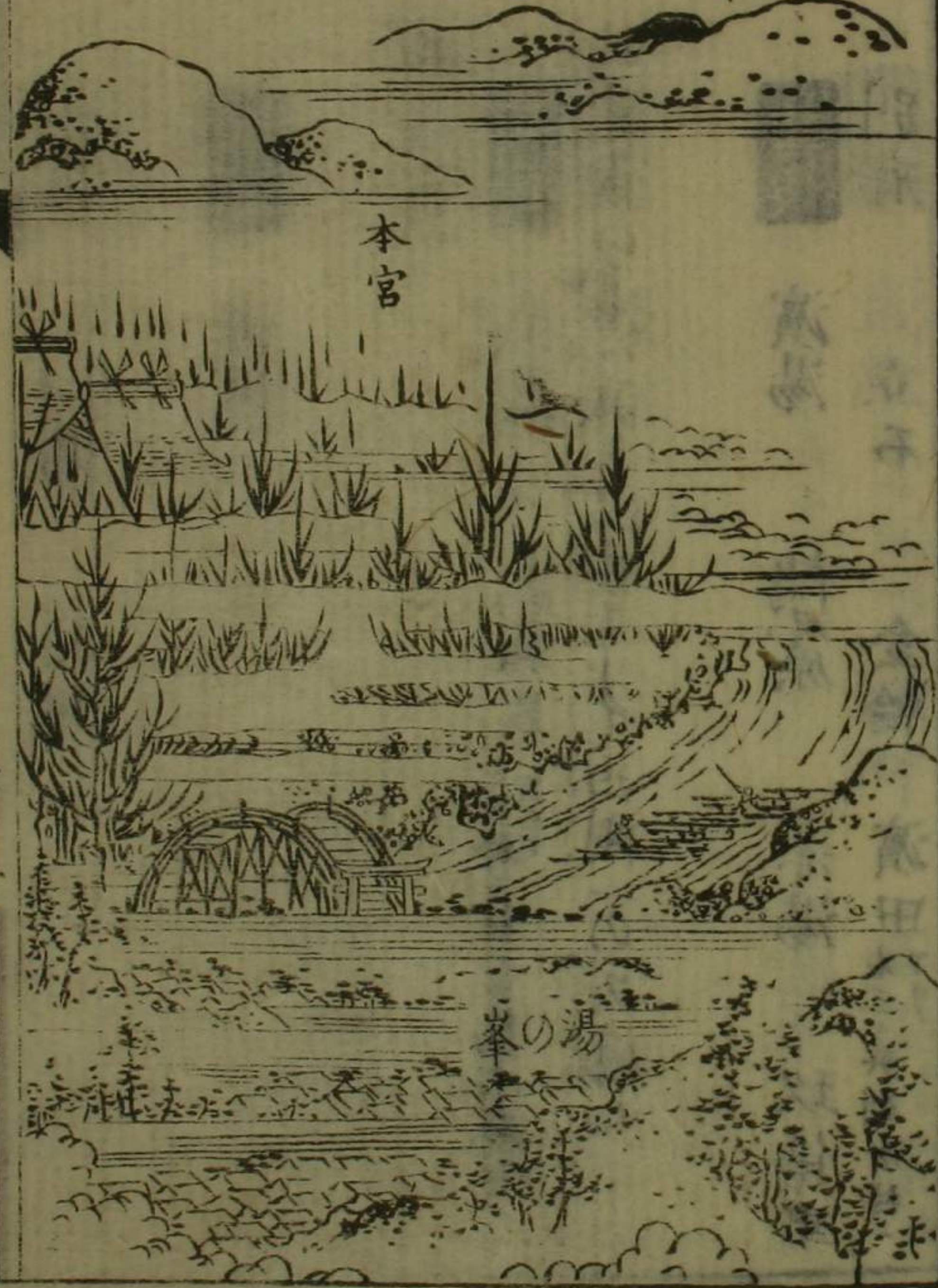
有福

温泉津

有福の湯ハ清涼

みそ飯茶ありと用之温泉津ハ濁りあり

七起峯



南海道

紀伊

長門

周防

美作

隠岐

龍神

俵山

湯田

湯原

島後

沖中より

湯崎

深川

湯郷

本宮

川棚

真賀

茶師ノ湯

出谷 川湯 二河

伊豫 道後

西海道

筑前 武藏一名虎麻呂 三重郡天孫山の麓武藏村

一此武藏の湯誠の溫柔にして西國一の名湯也

豊後 濱湯 鶴見原 赤湯 玖倍里

別府 立石 金輪 濱田右三ヶ所別府村ニ

肥前 武雄一名塚崎 嬉野 温泉山地獄湯

小濱海をよほり 高木

肥後 雜來ひちく 硫黄嶽 椽木 湯谷

葦北 平山 垂玉 杖立 山鹿

日向 霧島 白鳥 硫黄谷加久藤を河り

大隅 安樂 鉾薙かきあき 踊り

薩摩

副田 入来あり

湯田 市来あり

児水

成川 山川あり

摺濱

芝立 榊宿あり

市比野 蒲生あり

大河内 出水あり

壹岐

湯本

凡四十國二百九十二ヶ所

一湯治れどもいづれ散れどもすれども時々山溪あり
極くを濕毒に中るものなりは亦養生のゆゑに
勘弁あるべきなり

○諸國御関所

遠州

今切 菟井

氣賀

相州

箱根

根府川

夫倉沢

河村

仙石原

谷ヶ村

武州

中川

市川

小岩

金町

新郷

小佛

下總

松戸 房川

栗橋

関宿

甲州

本柄

鶴瀬

万沢

上州

川俣

碓氷

横川

猿京 大戸

李ヶ橋 南牧

大笹 狩宿

五料實正 白井大渡 福島戸倉

近江 柳瀬 山中 釵熊

信州 福嶋 浪合 帶川 心川

小野川 熱川 清内路 木曾

越後 関川虫川 市振山口 鉢崎

一通りの形は大切なる持等々其所の茶屋より二役
以上 津裏所より下等之形切の事恒平鼻紙
入事尋さかき不^か五^か四^か なるもの之女通りの形
まの同捨より若一向なる東の人の心をもの
中振る成あり合す

東海道割増附左大宿割増

五割増	本馬	軽尻	人足
平塚	又十一又	三十一又	廿七又
大磯	二百七十九又	百六十六又	百三十九又
小田原	六百十又	四百三十五又	三百三十五又
箱根	下七十九又	下百十又	下百十又
三島	七百六十八又	四百七十五又	三百七十五又
吉原	二百三十七又	百六十八又	百一十又
蒲原	六十六又	四十八又	三十二又
日坂	百四十又	九十二又	七十二又
袋井	下百共又	下百十又	下百十又
舞坂	百八又	六十八又	五十八又
新居	又十二又	四十七又	十八又
	百十八又	七十八又	又十九又

中仙道 當時 刻み付

守山 刻み付 刻み付

日光道中 當時 刻み付

日光道中 刻み付 刻み付

甲州道中 當時 刻み付

奥州道中 當時 刻み付

喜連川 刻み付

江戸目橋 諸國出口方角道法

東海道 刻み付 刻み付

日本橋 刻み付 刻み付

中仙道 刻み付 刻み付

板橋 刻み付 刻み付

二川	百十四文	七十一文	又十文
赤坂	百六十五文	百一十文	七十文
菟川	百六十一文	七十七文	又十九文
乙系師	又千一十文	又千一十文	又十九文
庄破	百一十文	八十七文	又十九文
坂の下	三百零五文	三百零五文	百七十五文
草津	三百零五文	三百零五文	百七十五文

右十八宿より外川宿まで守口宿まで二
 依在詔兵渡海せ地而高野村二割増
 あり此外中仙道日光道中甲川宿
 奥州道中各宿時々割増あり
 其中二宿二宿又割増或は二割増
 あり身危し而道中賃残ハ割増を不
 敷なりハ賦賃よりと置る

川越道口 乾きあり多鴨より上板橋あり
 此宿煉馬宿あり日本橋より煉馬より四里
 岩附道口 乾きあり本郷道より川口より
 日本橋より川口より四里半
 甲州道口 西より高井より四里半
 相州大山近道口 申の方より高井より四里半
 奥州道 日光道 北より高井より四里半
 千住より日本橋より千住より二里八丁
 水戸道口 丑の方より高井より四里半
 新宿より日本橋より新宿より三里半
 下総道口 東より高井より四里半
 日本橋より中川渡場より二里半
 成田山鹿嶋香取息柄潮来銚子の道
 皆此口より物あり

東海道五十三次賦賃附

本馬	本馬	輕尻	人足
日本橋	二リ	九十四文	六十一文
赤川	二リ半	百十四文	七十一文
加日崎	二リ半	百十四文	七十一文
久米川	二リ半	百十四文	七十一文
程ヶ谷	二リ半	百十四文	七十一文
戸塚	二リ半	百十四文	七十一文
菟沢	二リ半	百十四文	七十一文
平つら	二リ半	百十四文	七十一文
大いそ	二リ半	百十四文	七十一文
小田原	二リ半	百十四文	七十一文
箱根	二リ半	百十四文	七十一文
三嶋	二リ半	百十四文	七十一文
沼津	二リ半	百十四文	七十一文

木曾路六十九次賦賃附

本馬	本馬	輕尻	人足
京	三リ	百六十九文	百一十一文
大津	三リ半	百六十九文	百一十一文
草津	三リ半	百六十九文	百一十一文
守山	三リ半	百六十九文	百一十一文
武佐	三リ半	百六十九文	百一十一文
高宮	三リ半	百六十九文	百一十一文
鳥井	三リ半	百六十九文	百一十一文
醒井	三リ半	百六十九文	百一十一文
柏原	三リ半	百六十九文	百一十一文
今頃	三リ半	百六十九文	百一十一文
関ヶ原	三リ半	百六十九文	百一十一文
垂井	三リ半	百六十九文	百一十一文
河ヶ坂	三リ半	百六十九文	百一十一文

原	三ノ寺	百三十四	八十四	六十八
吉原	二ノ寺	百五十五	百	七十四
蒲原	一ノ寺	四十四	三十九	三十二
由井	二ノ寺	百六十五	百七十九	七十九
奥津	一ノ寺	四十七	三十二	二十二
江尻	二ノ寺	百九十一	七十七	八十八
府中	一ノ寺	八十二	八十五	四十一
まり	二ノ寺	百四十五	九十一	七十九
岡部	一ノ寺	七十九	八十一	三十九
茂枝	二ノ寺	百七十七	八十一	六十一
一田	一ノ寺	百七十七	七十七	八十八
金谷	二ノ寺	百四十八	九十四	七十一
日坂	一ノ寺	九十四	六十一	四十七
日坂	二ノ寺	百四十八	九十四	七十一
かげ川	一ノ寺	百七十九	七十九	三十九
袋井	二ノ寺	六十九	四十九	三十九
見附	一ノ寺	百六十五	百七十九	七十九
濱松	二ノ寺	百七十九	七十九	六十一
いづみ	一ノ寺	七十七	四十九	四十九
宮越	二ノ寺	八十三	八十四	四十二
なほ	一ノ寺	七十三	四十八	四十六
奥川	二ノ寺	九十四	六十一	四十七
本山	一ノ寺	三十一	二十一	十六
洗馬	二ノ寺	七十三	四十八	三十六
塩尻	一ノ寺	百六十五	百六十五	七十七
下諏訪	二ノ寺	三百五十五	三百六十八	百七十五
和田	一ノ寺	八十四	八十六	四十三
長久保	二ノ寺	六十六	四十九	三十九
あし	一ノ寺	四十七	三十九	二十四
を月	二ノ寺	三十九	二十二	十七
八ヶ	一ノ寺	三十九	二十二	十六
塩	二ノ寺	三十九	二十四	二十六
岩村	一ノ寺	四十七	三十九	二十四
小田	二ノ寺	四十九	三十九	二十四
追分	一ノ寺	四十二	二十九	二十

舞坂	海上	百七十九	三十一	十二
あし	一ノ寺	七十六	八十九	三十九
白須賀	二ノ寺	六十七	四十九	三十三
二ノ川	一ノ寺	七十九	四十七	三十六
よ	二ノ寺	百八十八	七十九	八十七
油	一ノ寺	百七十九	六十六	七十二
赤坂	二ノ寺	百七十九	六十六	八十一
菟川	一ノ寺	七十八	八十一	三十九
岡崎	二ノ寺	百七十九	百六十八	八十六
池鯉	一ノ寺	百七十九	八十二	六十一
鳴海	二ノ寺	六十九	四十九	三十三
宮	海上	百九十九	百三十三	四十五
来名	三ノ寺	百五十五	九十九	七十二
四日市	二ノ寺	百七十九	八十一	六十一
石茶師	一ノ寺	三十四	二十二	十八
庄野	二ノ寺	八十六	八十八	四十四
あし	一ノ寺	七十七	四十九	四十九
宮越	二ノ寺	八十三	八十四	四十二
なほ	一ノ寺	七十三	四十八	四十六
奥川	二ノ寺	九十四	六十一	四十七
本山	一ノ寺	三十一	二十一	十六
洗馬	二ノ寺	七十三	四十八	三十六
塩尻	一ノ寺	百六十五	百六十五	七十七
下諏訪	二ノ寺	三百五十五	三百六十八	百七十五
和田	一ノ寺	八十四	八十六	四十三
長久保	二ノ寺	六十六	四十九	三十九
あし	一ノ寺	四十七	三十九	二十四
を月	二ノ寺	三十九	二十二	十七
八ヶ	一ノ寺	三十九	二十二	十六
塩	二ノ寺	三十九	二十四	二十六
岩村	一ノ寺	四十七	三十九	二十四
小田	二ノ寺	四十九	三十九	二十四
追分	一ノ寺	四十二	二十九	二十

六十一

めめ山	一里半	六十九文	四十八文	三十八文
関	一里半	百十七文	七十二文	六十六文
坂下	二里半	三百九文	百四十六文	百一十一文
五山	二里半	百七十七文	八十一文	六十一文
水口	三里半	百四十六文	九十一文	七十二文
石部	二里半	百四十六文	八十八文	六十九文
草津	三里半	百六十九文	百九文	八十一文
大津	三里	百六十九文	百一十一文	八十二文
京都	凡里數合百廿四里半十五丁			
○依屋廻りの記				
宮	二里	本馬	輕尻	人足
上十八日	八十六文	八十七文	四十七文	
岩須賀	半里	二十二文	十八文	十二文
万場	半里	六十九文	四十六文	三十八文
冠守	半里	六十九文	四十六文	三十八文

沓掛	一里半	四十四文	三十三文	二十二文
軽井沢	一里半	百八十五文	百九文	八十九文
坂本	一里半	百七十七文	六十七文	六十二文
松井田	一里半	九十二文	六十六文	四十七文
安中	三里	三十四文	二十二文	十八文
板鼻	一里半	七十一文	四十六文	三十三文
高寺	一里半	七十一文	三十六文	二十八文
倉賀野	一里半	六十九文	四十四文	三十三文
新町	二里	七十八文	五十一文	四十四文
本庄	一里半	百一十一文	七十二文	五十五文
深谷	一里半	百一十一文	七十二文	五十五文
熊谷	一里半	百一十一文	七十二文	五十五文
鴻の巣	一里半	七十二文	四十六文	三十三文
桶川	三里	七十七文	五十二文	四十九文
上尾	一里半	七十八文	五十二文	四十九文
大宮	一里半	四十九文	三十四文	二十八文
浦和	一里半	五十三文	三十六文	二十八文
やび	一里半	八十九文	六十八文	四十四文

佐屋川舟三
乗名

伊勢系宮道

四日市	二里半	
神戸	一里半	
白子	一里半	
上野	二里半	
津	二里	
雲津	二里	
松坂	四里	
小俣	一里半	
山田		
外官		
内官	津	
津	一里半	
久保田	四里	
関	東海	

秋葉山系詣道

鳳來寺		
掛川	三里	
森町	一里半	
市のせ	一里半	
子あ	一里	
成亥	一里半	
秋葉	一里半	
うん	一里半	
石	一里半	
くま	一里半	
大平	一里半	
酢山	一里	
大野	一里	
鳳来寺	九丁	
かど	や三	

板谷一里 九十九文
日本橋 凡里數合百三十五里十一丁

本坂越之道

見附	三里	
かや	四里	
氣賀	三里	
三市	一里半	
吹瀬山	四里	
油	東海	
宮	越前海道	
名古	一里半	
清須	一里半	
稲葉	一里半	
お	一里半	

尾州名古屋

大井	出	道法
名子	屋	二里
堀川	一里半	
坂下	一里半	
内津	一里半	
池田	二里	
高山	二里	
土岐	二里	
釜戸	三	
大井	本曾	
大津	大坂道	
伏見	四里	
淀	見	五丁

伊勢ヨ大和廻リ
奈良吉野高野道
山田一リ
小豆一ニリ
くー田ニリ
松坂一リ
六人や半リ
月本ニリ
むさひ四リ
なくのニリ
阿比三リ
山田ニリ
上野ニリ
鳴河原一リ半
大河原一リ半
かきたニリ
かめニリ
奈良一リ

志の城ニリ半
大木ニリ半
油東海
伊勢ヨ田丸越
山田一リ半
田丸ニリ
あふがニリ半
はる一リ半
大石一リ半
みつきニリ
たけ一リ
大きつ半リ
花原半リ
杉原一リ
くすく半リ
まのの一リ半
ゆた又一リ

まのま三リ
大垣ニリ半
垂井一リ半
関ヶ原一リ半
あち川一リ半
まのせう四リ
おたよニリ半
木の本ニリ半
やまのせ一リ
はぐのニリ
中河内三リ
板と一リ
今庄一リ
おのをニリ
脇本ニリ
府中一リ
鯖江一リ
水おち一リ

牧方五リ
大坂
伏見ヨ大坂下船
伏見十三リ
大坂
大坂京上舟廻り
大坂ヨ紀州道
大坂三リ
堀一リ
石津三リ
岸和田半リ
貝塚ニリ
志立三リ
山中一リ半
山口ニリ
和山一リ

帯と一リ
市のか一リ
丹波市一リ
柳本一リ
三輪神社一リ
慈恩寺一リ
くせ観音半
さくお半リ
あむら十丁
岡寺ニリ
小坂五十丁
多武峯ニリ
ちまう一リ
上市一リ
よのり十丁
あせつ五リ
とろ辻十八丁

山々一リ半
田口三リ
くろ糸一リ半
やせ一リ半
こじニリ
丹波市ニリ
帯と一リ
奈良一リ
くせ崎五リ
大坂
江嶋鎌倉道
日本橋ニリ
お川ニリ半
川さ死ニリ半
かな川一リ九丁
程ヶ谷ニリ九丁
戸塚一リ九丁

ゆづろニリ
福井越前
此茨ヨリ
三国へ五リ
大聖寺九リ
小松へ十四リ
金沢へ六リ
江原加賀信州
善光寺道中
江戸追分六ヶ高
追分三リ
小諸一リ半
田中ニリ半
上田三リ
せら木三リ
室井と三通りあり
八代一リ八代ニリ半
藤嶋一リ松代一リ

大坂長崎道
大坂三リ
尼ヶ崎一ニリ
西の宮五リ
兵庫五リ
明石五リ
お二河五リ
姫路一リ
姫路と浜久法
三月月へ八リ
因州取島六八リ
作洲津一リ
津山一リ
お山一リ
お山一リ
正所十八丁
かゝ嶋三リ
うら八丁

高野山五十丁
 天の川此間宿多し
 つねの内十八丁
 ころ川五十丁
 うやニリ
 うのニリ
 かあろ一リ
 くら本ニリ
 きれ峠ニリ
 三日市ニ半
 いとむるニリ
 少町一リ半
 ものす一リ
 大坂 三リ
 江戸奥州道
 日本橋ニリ

江の島
 大山系街道
 板沢東海を
 一の宮七丁
 田村ニリ
 いせ原一リ
 子安
 大山
 江戸ヨリ甲州
 富山身延道
 日本橋ニリ
 四ツ谷ニ丁
 下高井戸ニ丁
 布田ニ丁
 府中ニ丁

善光寺川田ニ半
 荒町長沼ニリ
 室井室井ニリ
 柏原一リ
 野尻一リ
 関川一リ半
 二俣一リ半
 関の山大丁
 松崎大丁
 荒井一リ半
 高田一リ
 中屋ニリ
 長濱一リ
 有間川ニリ
 あらちニリ
 のふ一リ半
 糸魚川一リ半

三ッ石ニリ半
 片上四丁
 板倉三リ
 岡山三丁
 川邊三リ
 矢のけ三リ
 七日市一丁
 高屋一丁
 神苗四リ
 今津ニリ
 小野道三リ
 見ま一リ半
 の本御一リ半
 たまろ市ニリ
 さい糸五半
 かいニリ
 廣嶋一リ半

千住一八丁
 草加一八丁
 越谷一八丁
 杉戸一八丁
 幸一八丁
 栗橋一八丁
 中田一八丁
 古河一八丁
 のぎ一八丁
 ま一八丁
 小山一八丁
 新田一八丁
 小金井一八丁
 石一八丁
 雀の宮一八丁
 宇都宮一八丁
 白沢一八丁

日野一八丁
 八王子一八丁
 駒木野一八丁
 小仏一八丁
 小原一八丁
 よ一八丁
 関一八丁
 上野原一八丁
 つる川一八丁
 の尻一八丁
 犬目一八丁
 上鳥沢一八丁
 さ一八丁
 駒一八丁
 大月一八丁
 此野一八丁
 大月一八丁
 矢村一八丁

あ一八丁
 う一八丁
 市一八丁
 さ一八丁
 泊一八丁
 横山一八丁
 三日市一八丁
 う一八丁
 滑川一八丁
 東一八丁
 下村一八丁
 小一八丁
 高岡一八丁
 今不動一八丁
 今一八丁
 竹の橋一八丁
 竹一八丁

此野一八丁
 宮島一八丁
 草津一八丁
 廿日市一八丁
 く一八丁
 せ一八丁
 此間一八丁
 高一八丁
 今市一八丁
 窪田一八丁
 花岡一八丁
 徳山一八丁
 富田一八丁
 富一八丁
 どの一八丁
 官市一八丁

氏江ニリ四丁
きれ川ニリ五丁
作山ニリ五丁
太田原ニリ三丁
こ名塘ニリ六丁
芦野ニリ四丁
白坂ニリ三丁
白川ニリ三丁
糸だ一丁
小田川ニリ三丁
大田川ニリ四丁
ふませニリ三丁
大和久八丁
まゑ田十一丁
矢吹北四丁
くろ一十三丁
笠石一リ半

おのま一リ半
上吉田
富士山
下花崎一リ五丁
下初一リ
白野一リ
黒野田一リ半
つせ一リ三丁
うの沼ニリ三丁
石和一リ九丁
甲府口に別を
かちう沢石沢
羽木井五リ半
身延山東海を先
南部三リ
万沢四リ
松のニリ
岩洲東海を

金沢加賀口
金沢小松大聖寺道
の市今金沢
松一リ富山
かみり富田
水嶋一リ中田
栗生一リ戸を
寺井一リ今不動
小松一リとあ
今井一リ竹の区
月津一リは
ふさ一リ金沢
佐見一リ滑川
大聖寺富山
豊前小倉よ
薩摩鹿兒嶋道

木一リ山中
此一リ
長門萩一リ
山中一リ半
舟木一リ八丁
あさか市一リ八丁
ふら田一リ
小月一リ
長府一リ
下の関三リ
小倉黒
此一リ
中津一リ三丁
小倉ヨリ田代道
両道一リ
ひら水通り分
小倉一リ半
黒崎一リ半

さの川一リ七丁
笹川一八丁
日出の山十二丁
小原田十五丁
郡山北八丁
福原北三丁
ひら一三三丁
高々一七丁
本宮一七丁
杉田一六丁
二本松一六丁
油井一六丁
二本柳一六丁
八丁の目一六丁
若宮十一丁
祢一五丁
福嶋一八丁
せの上一七丁
衆折一七丁

江戸上総房州道法
行徳一リ大和
舟橋一リ白井
馬加一丁佐倉
桜見山横芝
寒川一丁東金
まみ一丁千葉
八丁一リち
五井一リ六
姉崎一リ高師
なら一リ宮
木更一リ長
佐貫一リ流山
天神山長南
百首一リ大
金谷一リ今富

小倉一三三丁
黒崎一四四丁
あやせ一四半六丁
飯塚一三三丁
内野一三九丁
山家一三三丁
松崎一三三丁
府中一三三丁
宿の町一三三丁
せあ一四四丁
南の関一四半
高瀬一五五丁
高橋一三三丁
川尻一五五丁
小川一四四丁
高田村一三三丁
ひま久一三三丁
田代一三三丁

こやのせ一四半
飯塚一三三丁
内野一三九丁
山上一四九丁
原田一三三丁
田代
此一丁合
の通り出合
小倉ヨリ八町峠
通
小倉一三三丁
まひの一四四丁
まひの一三三丁
まひの一三三丁
まひの一三三丁
まひの一三三丁
まひの一三三丁
まひの一三三丁
まひの一三三丁

菟田一七丁
貝田十八丁
こすぶら一六丁
さい川一六丁
白石一六八丁
葛田官一三丁
金ヶせ三十丁
大河原一三丁
舟迫一三丁
概木一七丁
岩沼一七丁
倍田一七丁
中田一七丁
長町一三三丁
仙臺一三三丁
七北田一三三丁
志ん町一三三丁
吉岡一三三丁

保田一房茅や一リ
勝山一久置一リ
大房一ツ浦一リ
府中一上野一リ
北条一内浦一リ
館山一内浦一リ
那胡一天津寺
洲崎一乙濱
江戸一鹿嶋香取
息柄一ヤ一
日本橋一三三
行徳一三三
八幡一三三
釜ヶ谷一三三
白井一三三
大森一三三
木おろし一三三
潮来一三三

佐友一四半
水の俣一四半
いのい一四半
野田一四半
阿久根一四半
西方一四半
向田一四半
みあと一四半
苗代川一四半
横井一四半
鹿兒島一四半
琉球国一四半
瀬の上一四半
米沢道一四半
せの上一四半
佐奈一四半
度坂一四半
幸平一四半

秋月一六丁
野町一六丁
松崎一六丁
此所一六丁
久留米一六丁
此所一六丁
柳川一六丁
此所一六丁
熊水一六丁
田代一六丁
此所一六丁
中々一六丁
此所一六丁
さの町一六丁
牛津一六丁
小田一六丁

三本木一三三丁
古川一三三丁
あや一三三丁
高清水一三三丁
月立一三三丁
官野一三三丁
沢辺一三三丁
金成一三三丁
有壁一三三丁
一の関一三三丁
山の目一三三丁
前沢一三三丁
水沢一三三丁
金寄一三三丁
鬼柳一三三丁
黒沢尻一三三丁
花巻一三三丁
石こや一三三丁
郡山一三三丁

鹿島一三三丁
香取一三三丁
息柄一三三丁
銚子一三三丁
木おろし一三三丁
安食一三三丁
神崎一三三丁
津宮一三三丁
香取神社
小見川一三三丁
佐々川一三三丁
野尻一三三丁
銚子
江戸一日光道中
日本橋一三三丁
千住一三三丁
草加一三三丁

坂谷一三三丁
大波一三三丁
米沢一三三丁
粕目一三三丁
銚子一三三丁
赤湯一三三丁
川樋一三三丁
老津一三三丁
中山一三三丁
川口一三三丁
上の山一三三丁
戦巴一三三丁
山辺一三三丁
長崎一三三丁
さく木一三三丁
白岩一三三丁
海塩一三三丁
佐沢一三三丁

成旗一三三丁
塩田一三三丁
嬉野一三三丁
その木一三三丁
松原一三三丁
大村一三三丁
いさや一三三丁
矢一三三丁
日見一三三丁
長崎一三三丁
大坂一三三丁
兵庫一三三丁
明石一三三丁
室一三三丁
大坂一三三丁
牛嶋一三三丁

南部盛岡 四七七
志多民 四三三
沼宮内 八八丁
一のノ 一七丁
福岡 七丁
金田市 三三三
三のノ 三三三
麻水 一七七
五のノ 一七七
傳方寺 卅丁
七のノ 五五五
野辺地 四三三
小湊 四三三
野内 三三三
青盛 一三三
大濱 三三三
蓬田 二二三

越ヶ谷 二二半
かや 一七半
杉戸 一七半
幸の 二二半
栗橋 二二
中田 一七半
古河 九九丁
野水 二二
まの 田 五五丁
小山 七半
新田 十九丁
小金井 一七半
石の 一七半
雀の宮 三三丁
宇都宮 一七
野沢 一七半
徳二良 一七半
大沢 二二

本等 湯口
いさ 荒屋
ちの 網本
たむき 赤谷
大綱 山内
松根 芝田
丸岡 米倉
鶴岡 宮峯
乗折 加持
秋田道 中条
乗折 黒川
小坂 平林
吉沢 村上
下沢 庄内
渡せ 本庄
瀬木 鶴岡
赤島 新川
味田 新川

ひ 三三
志多民 七三
白石 三三
靱 五三
白 け 十
三たらの 五
かまの 八
津和 五
うむろ 七
上の関 五
室す 五
おき 七
むろ 五
新泊 十
下の関 三
○下の関 大
市大 大
松の 大

蟹田 五五五
平館 五五五
今別 一八丁
三廐 海上七
松前 〇
○野邊地 佐井通
野辺地 一八丁
有戸 四六六
横濱 一七七
中津 三三三
田名部 三三三
大畑 二二二
下風呂 二二二
異国 一三三
大淵 一三三
奥戸 二二
佐井 海上八
松前箱館

今市 二二
鉢石 十丁
日光
江戸水戸海道
日本橋 二二
千住 一七
新宿 一七
松戸 二二
小金 三三
あびこ 一七
取手 二二
茨代 二二
若柴 二二
牛久 二二
荒川 二二
中村 一七
土浦 一七

湯原 酒田
樋下 吹浦
上の山 女鹿
松原 小砂川
山形 塩越
天童 象河
六田 金の浦
楢園 井田
飯田 平次
林田 本庄
尾花 秋田
柳沢 津軽道
舟方 久保田
清水 湊
相貝 大窪
古川 蛇川
新庄 大川
金山 鹿渡

小 三三
此 三三
小倉 三三
黒崎 三三
赤間 二二
あせ 二二
青柳 三三
箱崎 三三
博田 一七
福岡 一七
黒崎 三三
さの 四
飯塚 三三
内野 三三
山上 一三
原田 二二
田代 一七

本馬 卅六貫目
 舞下 十八貫目
 控尻 三ノ目
 河内附 八ノ目
 右の駄賃は右に
 左の駄賃を二ツ
 合く三ノ目則
 右の駄賃を
 左の駄賃を
 百又の付ニツ合
 廿二百又なる
 これを三ツ割バ
 六十又とさる
 金箱 ふノ目
 左の駄賃を
 右の駄賃を

中ぬき一リ
 稲石一リ
 府中一リ
 竹原一リ
 片倉一リ
 おさく一リ
 長岡一リ
 水戸此所大田通奥州
 新田一リ
 額田一リ半
 大田一リ
 町家一リ
 わあち一リ
 川原の一リ半
 折一リ
 大中一リ
 小中七ノ目

のきり 森岡一リ
 陣内一リ 檜山一リ
 横河一リ 鶴形一リ
 湯沢一リ 飛根一リ
 横一リ 荷場一リ
 金沢一リ 小紫一リ
 六郷一リ 前山一リ
 大曲一リ 今泉一リ
 花立一リ 房沢一リ
 神事一リ つか一リ
 別荘一リ 大館一リ
 堺一リ 萩一リ
 戸崎一リ 破関一リ
 久保田一リ 弘前一リ
 湊一リ 此所一リ
 此所一リ 陸地一リ
 松前海上 屋敷一リ
 七十八里 二十八里

是ノ長崎と前ノ同
 肥前名子屋
 對馬朝鮮里數
 名子屋舟路
 勝本舟路
 對馬舟路
 朝鮮国
 大坂一リ 釜山浦一リ
 三百七十里餘
 長崎一リ 外國里數
 南京一リ 三百四十里
 廣東一リ 八百七十里
 東京一リ 千六百里
 東捕塞一リ 千八百里
 暹羅一リ 二千三百里
 天竺一リ 百四十里
 阿蘭陀一リ 百四十里
 イギリス一リ 百四十里

西國三十三所
 觀音靈場地名

一番 紀伊國 那智山
 二番 同 紀三井寺
 三番 同 粉河寺
 四番 和泉國 槇尾寺
 五番 河内國 葛井寺
 六番 大和國 壺坂寺
 七番 同 同寺
 八番 同 長谷寺

秩父三十四所
 觀音靈場地名

一番 四万部 妙音寺
 二番 大畑 眞福寺
 三番 岩本 常泉寺
 四番 荒木 金昌寺
 五番 芳重 語歌寺
 六番 菰堂 ト雲寺
 七番 牛伏 法長寺
 八番 青倉山 西善寺

坂東三十一所
 觀音靈場地名

一番 相州 鎌倉 杉本寺
 二番 同 浦 岩殿寺
 三番 同 鎌倉 田代堂
 四番 同 長谷寺
 五番 同 足柄郡 飯泉
 六番 同 飯山 長谷寺
 七番 同 金目 光明寺
 八番 同 星谷 星谷寺

九番 奈良 南圓堂	十番 宇治 三室戸寺	十一番 山城 上醍醐寺	十二番 江州 岩間寺	十三番 同 石山寺	十四番 同 三井寺	十五番 山城 今熊野	十六番 同 清水寺	十七番 同 波羅羅寺	十八番 同 六角堂
九番 明星山 明智寺	十番 万松山 大慈寺	十一番 坂水 常樂寺	十二番 佛道山 野坂寺	十三番 今多々 慈眼寺	十四番 長岳山 今宮坊	十五番 母真山 藏福寺	十六番 無量山 西光寺	十七番 今多々 定林寺	十八番 同 神門寺
九番 武蔵国 慈光寺	十番 比企岩殿 正法寺	十一番 同吉見 安樂寺	十二番 同岩付 慈恩寺	十三番 江戸 淺州寺	十四番 武州 弘明寺	十五番 羽白石 長谷寺	十六番 同 水澤寺	十七番 下野佐野 出流山	十八番 同日光 中禪寺

十九番 同 草堂	二十番 同 善峯寺	廿一番 丹波国 穴穂寺	廿二番 播磨国 総持寺	廿三番 同 勝尾寺	廿四番 同 中山寺	廿五番 播州 新清水寺	廿六番 同 法華山	廿七番 同 書寫山	廿八番 丹後国 成相寺
十九番 飛瀨山 龍石寺	二十番 同 岩の上	廿一番 同 矢の堂	廿二番 同 榮福寺	廿三番 今多々 音樂寺	廿四番 今多々 法泉寺	廿五番 久那 久昌寺	廿六番 下影森 圓融寺	廿七番 上影森 大淵寺	廿八番 八ヶ岳 橋立寺
十九番 下野 清心寺	二十番 同益子 西明寺	廿一番 常州 日輪寺	廿二番 同天神林 佐竹寺	廿三番 同菅間 佐白山	廿四番 同兩引 樂法寺	廿五番 同筑波山 大御堂	廿六番 同南明山 清瀧寺	廿七番 下總 飯沼山	廿八番 同滑河 龍正院

世番 若狭国 松尾寺	世番 世戸 長泉院	世番 上総 千葉寺
世番 江洲 竹生島	世番 多摩 寶雲寺	世番 高倉 高藏寺
世番 同 長命寺	世番 鷲尾 觀音院	世番 内笠森 楠光院
世番 同 觀音寺	世番 八三ヤ 法性寺	世番 同音羽 清水寺
世番 義濃国 谷汲寺	世番 小坂下 菊水寺	世番 房州 那吳寺
右谷汲寺と巡廻し 信州善光寺へ来るまで加 納へ出夫木曾路洗馬 より右へ行あり	世番 水ノリ 水潜寺	右房州との道すかかは 日光鹿島香取其外名 所跡最も多あるを西 国もたごめ風景之
歸厚客話 景山先生著 初編十冊近刻	世番 水ノリ 水潜寺	扶父一郡のみにて他郡へ まがひて便利よきこ

仕家と異一農家と田畑山林を肥
正直りて豪富と成りて各篤厚を積あけて一大家を成りて
古今に實事を集め夫々部々よりて初学の志を志す楷標也書あり

女子の
教訓の
繪入全冊
同
近刻

女子教訓の書古昔々
きあまきく育て物
とくたさるるてなれり時代は
俗河抄のあつたのころは
今世に於ては時々の名を
志しし立ぬ之教訓を
女子は三月方より諸藝の教を
禮儀化法に至るまで古の
由繪安持操本も今時
女子に至極のこみよきものあり

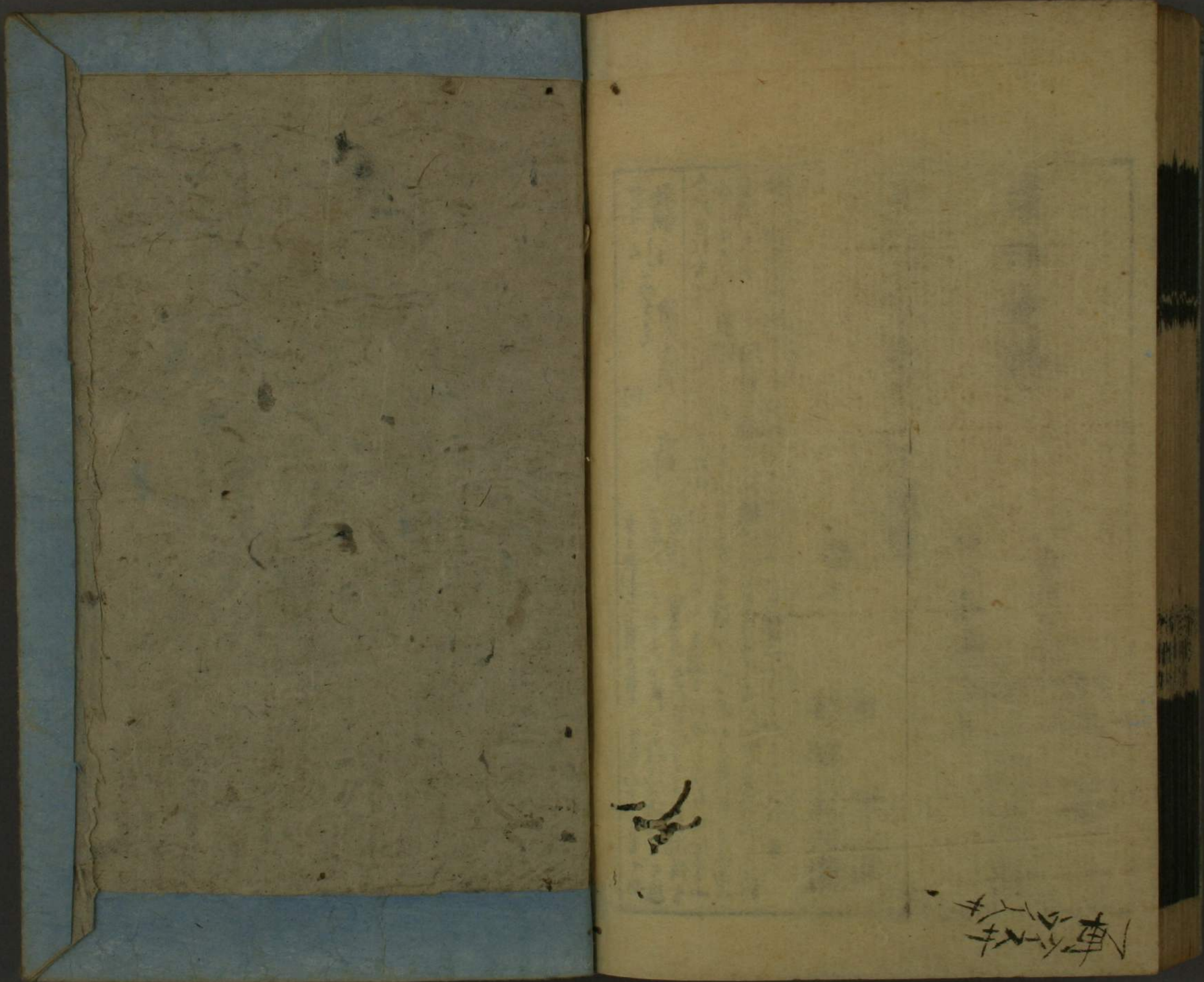
彫工
佐脇庄兵衛
同
伊三郎

文化七年庚午八月既望

日本橋通壹町目

東都書肆

須原屋茂兵衛
須原屋伊八



人

南山人作

